『露出狂』作・中屋敷法仁

【登場人物】

〈最強の1期生〉

御器　ゴキ　「質実剛健！不屈のリベロ！」

佐反町　サソリマチ　「喧嘩上等！フィールドの狂犬！」

白峰　シラミネ　「頭脳明晰！天才ゲームメイカー！」

比留　ヒル　「予測不能！トリックスター！」

蔵毛　クラゲ　「笑う敏腕マネージャー！」

〈波乱の2期生〉

蒲郡　ガマゴオリ　「大地を揺さぶるスーパーサブ！」

野宮　ノミヤ　「恋する暴走ファンタジスタ！」

葉枝　ハエダ　「炎のオフサイドマイスター！」

氏川　ウジガワ　「やんちゃな凡庸サイドバック！」

真今井　マイマイ　「半ベソ新米マネージャー！」

〈驚愕の3期生〉

羽生　ハブ　「嵐を巻き起こす万能ルーキー！」

香森　コウモリ　「軽薄なフリーキックの魔術師！」

九門　クモン　「敵を欺くシャドーストライカー！」

宇津保　ウツボ　「正確無比なサッカーコンピューター！」

※　この戯曲では「全員男性」の想定で一人称や敬称を揃えていますが、登場人物の性別は「全員男性」「全員女性」どちらでも上演可能です。

【1】

佐反町　勝ちたい。

佐反町　とにかく、勝ちたい。

佐反町　とにかく、勝てるだけ勝ちたい。

佐反町　とにかく、勝てるだけ勝つ為に、勝利という目標達成の為に、
俺たちに必要なものは一体何だ？

佐反町　白峰。

白峰　うむ。

佐反町　白峰。

白峰　我々に必要なのは、最高のチームワーク。
チームがひとつとなり、試合に臨むこと。それに尽きる。

佐反町　最高のチームワーク。その最高のチームワークを築く為に、
俺たちはどーしたらいいんだ？

白峰　具体的には、考え中だ。

佐反町　考え中なら、黙ってろ。

佐反町　比留。

比留　うん？

佐反町　比留。最高のチームワークを築くために、
俺たちはどーしたらいいんだ？

比留　しらない。

佐反町　知らない？

比留　しらないよ。かんがえたこともない。

佐反町　考えたこともねぇなら、黙ってろ。

佐反町　2年っ。どう思う。どうしたら俺たちはひとつになれる？

佐反町　蒲郡。
蒲郡　オスッ。
佐反町　蒲郡。
蒲郡　チーム全体で、ひとつの目標にむかえばいいんだと思います。
そうすれば、チームはひとつになります。
佐反町　チームの目標は「勝利」だ。
その為のチームワークをどうするかって話だろ。寝ぼけんな。

佐反町　野宮。
野宮　はいっ。
佐反町　野宮。
野宮　チーム全体で先輩たちのやり方に従います。
そうすれば、チームはひとつになります。
佐反町　俺たちのやり方に従う？
そんなんで同じチームメイトって呼べるかっ。

佐反町　氏川。
氏川　は、はい…。
佐反町　氏川。
氏川　えーっと…「みんなで仲良くがんばりましょう。おーっ」て感じで…。
佐反町　小学生からやり直せ。

佐反町　葉枝。
葉枝　はいはい…。
佐反町　葉枝。
葉枝　チームワークだなんて…無理ですよ。このメンバーじゃ。
佐反町　そんな話は聞いてねぇんだ。黙ってろ。

佐反町　1年っ。どう思う。どうしたら俺たちはひとつになれる？

佐反町　羽生。
羽生　はい。
佐反町　羽生。
羽生　歌を歌えばいいんだと思います？
佐反町　歌？　どんな歌だ？
羽生　（歌う）
佐反町　死ね。

佐反町　香森。
香森　はいはい。
佐反町　香森。
香森　…チームワークねぇ。いやいやいや、こりゃあれですね。
めちゃめちゃ難しいテーマですね。
スポーツマンの永遠のテーマっちゅーかなんちゅーか…。
佐反町　そうだな、そしてお前の答えは？
香森　…よし。みんなで、キャンプにでも行きますか？
佐反町　死ね。

佐反町　九門。
九門　はい。
佐反町　九門。
九門　逆に質問なんですが、今、私たちは、
チームワークが悪いのでしょうか？
佐反町　…。
九門　たしかに、ものすごく固い結束力、というわけではないですが、
試合にはそんなに差し支えないと思うんですが…。
佐反町　たしかにチームワークは、悪くはねぇ。しかし、良くもねぇ。
こんなんじゃ勝てない。俺たち3年はそう思ってる。

佐反町　マネージャーの蔵毛。
蔵毛　はい。

佐反町　蔵毛。
蔵毛　えーっと、パス。
佐反町　パスってなんだ？　パスって。
蔵毛　ピー・エー・エス・エス。パスパス、パース。
佐反町　じゃー、真今井。
真今井　ぼ、僕ですか？
佐反町　真今井。
真今井　え、えぇっと…
　　みんな、試合に勝ちたいって気持ちは一緒だと思うんです。
佐反町　おう。それで。
真今井　で、勝つ為には、
　　チームワークが不可欠だっていうことも分かっているんです。
佐反町　ふんふん。それで？
真今井　それで…。
佐反町　「みんなで仲良くがんばりましょう。おー」ってか？
　　お前も小学生からやり直せっ。
真今井　すみませんっ。
宇津保　謝る必要はないでしょう。ちゃんと、意見を言ったんですから。
真今井　あ、ごめん…。
宇津保　佐反町先輩。
佐反町　あ？
宇津保　佐反町先輩。
佐反町　どーした、エリート？
宇津保　どーやら皆、「勝ちたい」気持ちは同じのようです。そりゃーそうだ。
　　サッカー部。勝ちたくないわけがない。問題は、その勝利に向けて、どのような方針を定めるかということです。
佐反町　方針は、チームワークの強化。
宇津保　なるほど、チームワークの強化。そこで、先輩。
　　私にはどうもピンと来ていません。あなたが、いやいや、先輩方が、どうして、そんなに「チームワーク」にこだわるのか。
佐反町　宇津保。

宇津保　はい。
佐反町　宇津保。
宇津保　はい。
佐反町　お前らは、納得しろ。ただ納得しろ。「チームワーク」が必要なんだ。
宇津保　そう言われるなら、「わかりました」としか言えませんね。
佐反町　じゃあそう言えよ。
宇津保　「わかりました」。

御器　…あのな、宇津保。
佐反町　御器。
御器　あのな…。
佐反町　御器。話す必要はねぇ。
御器　指図すんな。部長は俺だ。
佐反町　…。
御器　あのな宇津保。俺は、お前らと、ひとつになりたい。
　最高のチームワークを築きたい。
宇津保　はい。
御器　その為に、話す。そして知ってもらいたい。
　俺たち3年が、この部活が、この高天原高校サッカー部が、
　どういう歴史をたどってきたのか。
宇津保　是非とも、お聞かせ願いましょう。

御器　（タイトルコール）『露出狂』。いざ、キックオフ。

御器　タイトルコールも無事に決まったところで、物語は今から、2年前。
　俺たち3年が、1年だった頃にさかのぼる。

【2】

蔵毛　さかのぼること2年前、には1年生だった、マネージャーの蔵毛だね。
当時の高天原高校サッカー部は部員総勢５０名の大きな大きなサッカー部だった。で、私と同じ1年にはすごい生意気なやつが3人いたってワケ。

佐反町　玉拾いなんかやってらんねーよ。
シュートだシュート。シュート撃たせろよマジで。

蔵毛　っていう、暴れん坊の「佐反町」。

白峰　朝練など、ナンセンスだ。
もっと合理的かつ効率的な練習をしたいものだ。

蔵毛　っていう、インテリ気取りの「白峰」。

比留　挨拶？　先輩に挨拶ですか？　え、してません。
はい。ワザトしてないんです。あははー。

蔵毛　っていう…なんて言うか、かわいい。「比留」。

蔵毛　この3人はただただ生意気で、部内じゃ問題児扱いされていたんだけど、3人の生意気には、ちゃんと理由があったのね。

佐反町　だってよー。ぜってー俺の方が蹴れるぜ。

白峰　朝練習などやっても、私のボールはとれるようにはならんぞ。

比留　僕、自分よりサッカー下手な人に挨拶したくないんです。

蔵毛　口先だけじゃない。この3人の技術は、部内で断トツだった。
けどまぁ、うちは一般的なフツーの部活動だったからね。
そんな3人は、入部早々、先輩たちと対立した。

佐反町　「1年生はグランド整備」とか納得いかないですね。試合でつかえねー

やつにやらせてあげましょうよ。学年関係なく。
白峰　ハーッハッハ。私ほど優秀な人間に玉拾いをさせるとはっ。
比留　え？　先輩がレギュラーなんですか？
おもしろーい。僕のフェイント、全然止められないくせに。
蔵毛　最低の空気だね。3人は部員たちから心底嫌われていたんだけど、
でもその能力はやっぱり圧倒的だった。で、そんな3人は妙に仲が良
かったんだね。

【3】

佐反町　おい。キャプテンあれ、マズくね？　どんだけボレー外してるんだよ。
白峰　ヒトコト言ってやりたいものだな。「ふざけるな」と。
比留　みんな「ドンマイドンマイ」言ってたよね。
白峰　私なら、こう言っているだろう。「ふざけるな」と。
佐反町　あーぁ。どいつもこいつも、レベル低いなー。
比留　レベル低いー。
佐反町　こうなりゃ公式戦は、俺ら3人でゴールキメまくるしかねーみてーだ
な。
比留　そーですね。
佐反町　2・3年にゃ任せてらんねぇっすよ。
白峰　作戦に背くことははなはだ不本意だが…チームの勝利の為にはやむ
を得えまい。
比留　そうしよう。ゴール決めちゃえ決めちゃえ。
蔵毛　しかし、そんな計画も、あっさり崩れ去る。
3人はレギュラーはおろか、補欠にも選ばれなかった。
佐反町　は？　は？　なんでだよ？　じゃあ、誰だよ。スタメン。
御器　…（メモを差し出す）。

白峰　…なるほど。これは何の冗談かな？
佐反町　正気かよ。部員の中から選ばれたイレブンが、これですか？
比留　最悪だー。勝つ気はあるのかぁ？
御器　部長たちは、部のチームワークをとったんだと思う。
佐反町　チームワーク？
御器　お前らを入れたら、チームワークが乱れるだろ。
佐反町　チームワーク？　え？　今チームワークっておっしゃいました？
御器　…。
佐反町　チームワークってなんだよ。目標は「勝利」だろ。
御器　その為の部活じゃねぇのか？
佐反町　…みんな、わかってんだよ。
御器　あ？
佐反町　みんな、お前らの方が上手いってことはわかってる。
御器　でも、認めたくないんだよ。
佐反町　何が？
御器　うまいやつが、誰でもレギュラーになれるなんて、おかしいだろ。
佐反町　おかしくねぇよ。何言ってんだバカか。
御器　…。
佐反町　うまいやつはレギュラーだろ。
御器　その前提ナシで、ナニを努力するんだよ。
比留　…。
御器　…ってか、コレ。御器も入ってないじゃん。
白峰　え？
御器　ますますおかしいな。
佐反町　どうして御器君のような人間が、入っていないんだ。
御器　いや、俺は…実力不足だからさ。
佐反町　は？　バカバカバカ。お前超うめーじゃん。
御器　…。
蔵毛　同じ一年で唯一３人と交流があったのが、御器。
先輩たちからはイジめられていたんだけど、体力と根性は人一倍あ

った。で、その実力を3人は認めていたんだね。

比留　どーすんの？　公式戦、出れないのー。

白峰　いや、こうなったら直談判だ。

我々や御器君のような優秀な選手が出れないのは、おかしい。

佐反町　よっしゃー。行くぞ御器。

御器　お、おいっ。俺を巻き込むな。

佐反町　たのもーっ。

うちら4人、レギュラーから外されてんの納得できねっす。

白峰　皆様には、選手を見る目がないのですか？

比留　そーだそーだ。お前らはバカだ。

葉枝　（先輩）「部活は部活の方針で動いている」

羽生　（先輩）「上手いからといってレギュラーになれるわけじゃない」

佐反町　おー。じゃあ下手なやつでもレギュラーになれるんすか？

九門　（先輩）「サッカーはチームで戦うスポーツだ」

蒲郡　（先輩）「どんなに技術があっても

チームワークが組めなければ試合にはだせない」

佐反町　は？　チームワークより技術だろ？

白峰　技術が無いくせに、チームワークがどーとか、

まるで仲良しお遊戯会だな。

蒲郡　（先輩）「んだとコラァ！」

比留　ってかってか、その「チームワーク」って、そんなにすごいんですか？

チームワークって、技術を超えるんですか？

見せてくださいよ。先輩たちのチームワーク。

蔵毛　この一言が、先輩たちを完全に怒らせた。

香森　（先輩）「だったら勝負してやろうじゃねえか。

負けたら退部だ。サッカー部辞めちまえ」。

佐反町　おう。いいっすよ。負けたら辞めますよ。で、勝負って何すか？

野宮　（先輩）「勝負っつったらサッカーに決まってんだろバーカ」
佐反町　いいっすね。サッカー。やりましょうや。
野宮　（先輩）「スタメン11人対、お前ら4人でな」
佐反町　ん…？
白峰　じ、11対4…。
比留　あれ…？
御器　え？「4人」って…自分も入ってます？
宇津保　（先輩）「お前らが勝ったら、お前らの好きにしていい。
ただし負けたら、この部から出ていけ」。
蔵毛　先輩たちに、4人を辞めさせる、いいキッカケを与えちゃったんだね。

【4】

蔵毛　いやー…大変なことになったね。
11対4とは…いくらなんでも…（ブツブツ）
佐反町　なんだよ。
蔵毛　え？
佐反町　ついてくんなよ。
白峰　帰りたまえ、蔵毛君。君はお呼びでない。
蔵毛　ヒドいなあ。同期のサクラじゃないか。
佐反町　あ？
蔵毛　タメ、タメ、タメ、ターメ。同期のサクラじゃないか。
佐反町　…マネージャーだろ。
蔵毛　けど、同期のサクラじゃないか。
佐反町　…行こうぜ。
蔵毛　フフ。ヒドいなぁ…。
シカトされたけど、私はこっそり、4人の後を尾行したんだね。
佐反町　もー。なんか歌おーぜ。せっかくカラオケ来たんだしょ。

白峰　歌ってる場合ではないだろう。
佐反町　いや、でもよー。
白峰　ミーティングをしに来たんだろう。我々はどうやったら勝てるのか。
　11対4という圧倒的な戦力差を、どうやって覆すのか。
佐反町　そんなの、「ウリャー」ってやりゃいけんだろ。
白峰　「ウリャー」？
佐反町　「ウリャー」だよ。
白峰　「ウリャー」…そんなもので勝てると思っているのか？
佐反町　おう。
白峰　本当に、勝てると思っているのか？
佐反町　おう。
白峰　もし本当にそう思っているなら、断言しよう。君は、バカだ。
佐反町　んだとぉ？
白峰　バーカ、バーカ、バーカ。
佐反町　バ、バカって言った方がバカなんだぞっ。
比留　やめなよ。
佐反町　…。
比留　無理だよ。11対4だよ。負けるよ、僕たち。
　負けて、退部して、もう高校じゃサッカーはできないね。
佐反町　いや…それは…。
比留　絶対絶対絶対。絶対負けるから。
佐反町　…。
比留　負けるけどさ、でも、いいじゃん。
　自分が認めてない連中と、サッカーなんてやりたくないじゃん。ねぇ。
佐反町　…。
比留　いいじゃん。最後にさ、
　本当に大好きなメンバーとサッカー出来るのだもの。
佐反町　…き、気持ち悪いこと言ってんじゃねぇぞ。
比留　気持ち悪いよ、僕。
佐反町　…。
比留　僕ね、本当に尊敬しているのだよ。白峰、佐反町。あと、御器。

このメンバーと一緒にやれたら、もう後悔ない。
高校生活、最高の思い出だよ。
白峰　「高校生活、最高の思い出…」。
一年生の春に、その言葉を使ってしまうか。
比留　使ってしまった。
御器　俺のこと、尊敬してんの？
比留　あれ？　言ってなったっけ？
御器　…初めてだよ、そんなこと言われたの。
比留　僕、初めての人になりました。御器はすごいんだよ。
佐反町　いや、俺も、御器はマジですげぇと思ってる。
ミニゲームとか見てても、一番スタミナあるからなーこいつ。
白峰　蹴られても倒されてもボールに食らいつく根性。ガッツ。
私も、御器くんは素晴らしいプレイヤーだと思っている。
御器　…。
白峰　どうだろう、御器君。君だけでも先輩方に謝って、部に残ったらどうだね。我々３人は、もう引き返せないところに来てしまったが、まだ君は…。
比留　白峰。それはキミの本音ですか？
白峰　…ハッハッハ。本音を言わせてもらうなら…私は、御器くんと同じチームで、戦ってみたい。
佐反町　おい。じゃあそう言えよ。
白峰　部活とか勝敗とかどうでもいい。
私は、このメンバーで、本気でサッカーがしてみたいのだよ。
佐反町　よく言った。そして俺も同じ気持ちだ。
こんなに信頼できるメンバー、なかなか揃わないぜ。
御器　あの…。
佐反町　なんだよ。
御器　俺も、先輩たちの前で言わなかったけどさ、
佐反町　なんだよ。
御器　この３人は、本当にすごいと思ってるんだ。だから、一緒にやりたい。
部内で最強の３人だよ。

白峰　こら。3人じゃないだろ。ワン・ツー・スリー・フォー。最強の4人だっ。
佐反町　そうだ。最強だよっ。
こんなメンバーに出会えるなんて、あり得ないだろ。

佐反町　例え、部活を追いだされようと、
比留　悔いのないゲームを
白峰　悔いのないサッカーを
御器　仲間たちと一緒にっ。

絡み合う4人。

蔵毛　これまで経験したことのない、危険な興奮状態に陥った4人。
…4人は誰からともなく、お互いの身体を…求めあった。
私はドアの前で、店員が来ないように気を配りながら、4人の声を聞いていた。うそ。一部始終、見ていた。ガン見していた。

蔵毛　翌日。先輩達11名対4人の、退部を賭けた試合が始まる。
前後半90分プラスロスタイムのフルゲーム。

試合が始まり、終わる。。

蔵毛　結果は散々。36対ゼロ。絶望的な点数差、36対ゼロで…。
佐反町　マジかよ……・勝っちまった。

蔵毛　たった4人で、先輩たちに勝っちゃったんだね。
御器　な、なんでー？
蔵毛　白峰の的確なパスを受けてからの、力でねじ込む佐反町のパワーシュート。予想外の角度からの比留のトリックシュート。そして、体をはって命がけで守る御器。4人のチームワークは完璧だった。

佐反町　うおー。勝ったぞーコノヤローー。

御器　やったー。
白峰　ハーッハッハッハ。
蔵毛　先輩たちは４人に、部員たちのチームワークの素晴らしさを証明するつもりだった。が、逆にこの４人のチームワーク。そして技術の高さを証明してしまう結果となったんだね。

【5】

白峰　先輩方。これで我々の実力を認めていただけましたでしょうか？
これからはぜひ、私たちの意見も取り入れ、部全体の戦力アップを
…あれ？
蔵毛　１年生に、しかも、たった４人に完敗。先輩たちのプライドはズタズタ。部に残れるわけがないじゃない。
白峰　あれ？
蔵毛　４人以外、みんな残らず、退部してしまった。
白峰　…え？

御器　…どーすんだよ。勝ったのはいーけど、４人じゃ何もできないぞ。
白峰　まったくだ。
御器　先輩たちにお願いして、部に残ってもらおう。
佐反町　ちょ、俺言ってくるわっ。
比留　いいよ。いらないよ。
御器　え？
比留　邪魔者がいなくなってせいせいしたぜ。
　　僕たちだけで、やろうよ。サッカー部。
３人　お、おー…。

真今井　（急に入ってくる）こうして、高天原高校サッカー部は、１年生４人だけで、再スタートしたのでしたっ。

比留　大好きな人だけで、うれしいね。
御器　たしかに大好きだけど…でも、４人じゃ、何もできないだろっ。
蔵毛　４人だけじゃないよ。
御器　え？
蔵毛　私がいるよ。
佐反町　お前マネージャーだろ。
蔵毛　フフ…ヒドイな…差別だなんて…。

真今井　この時、マネージャーの蔵毛さんは残っていたんだけど、選手は４人。これでは、通常の練習もままならない。

白峰　練習試合だっ。
佐反町　え？
白峰　他校と練習試合をすればいいじゃないっ。

真今井　そこで、４人だけで、他校と練習試合をやりましたとさ。
佐反町　よーし、行くぞー。
御器・白峰・比留　おー。

真今井　県内のあらゆる高校と戦ったが、結果は散々。どこと戦っても…圧勝してしまうのである。

御器　えええええ？
比留　やったーっ。
白峰　向かうところ、敵なしだーっ。
佐反町　最強だ。俺たちは、最強だっ。

蔵毛　高天原高校サッカー部、最強の４人。
佐反町　佐反町。
白峰　白峰。

比留　比留。
御器　御器。
蔵毛　やがてこの４人は、他校から
４人　四天王っ。
蔵毛　と呼ばれ恐れられる、ことになる。
真今井　し、「四天王」ですか…。
蔵毛　どうしたの？
真今井　…ダサいっすね正直。
蔵毛　しかし、本人たちはそうは思っていなかった。

白峰　四天王…いい響きだ。
佐反町　かっこよすぎるぜっ。
御器　四天王…四天王…。
比留　すてきだー。最強だー。
真今井　まぁ、本人たちがそれでいいなら…。

御器　おいおい。最強なのはいいけどよ、たった４人じゃ公式戦にも出れないぞ。
比留　いいじゃん。出なくて。好きなメンバーとやれるんだもの。
白峰　公式戦に出ないで、何のための部活だ。
佐反町　なんとか部員を増やさねぇとな。
比留　でも、よくわかんないヤツいれるのはヤダよ。
佐反町　じゃあ、よくわかんなくないヤツだけを入れんぞ(？)。
御器　来年になれば、また新入生がたくさん入ってくる。
　　そしたら、本当の意味で、俺たちの部活が始まる。
比留　よしよし。じゃあそれに向けて、今日も、ミーティングだ。
佐反町　ミーティングか…。
白峰　ミーティングね…。
御器　…。

蔵毛　「四天王」は毎日のようにミーティングと称し、カラオケに通った。も

ちろん一曲も歌わない。やることはひとつだけ。

御器　あ、今日俺いいや。

比留　なんで？なんで？なんで？

御器　…いや、金ないから。

比留　もー。お金くらい僕、貸すよー。行こうよー。

白峰　御器君。来たまえ…。

佐反町　御器…。

絡み合う４人。

蔵毛　狭く薄暗いカラオケボックスの中で、お互いの体を、触ったり舐めたり、触ったり舐めたりをくり返す４人。その行為は、四天王の結束力をチョー強くしていた。四天王は精神的にも肉体的にも、つながっていたワケ。

絶頂を迎える４人。

蔵毛　公式戦に出場せず、４人だけで、グラウンドとカラオケボックスを行き来する日々…。この時期のことは、後に「四天王カラオケセックス時代」と呼ばれる（？）。

真今井　…誰が呼んでるんですか？

蔵毛　私だよ。

真今井　はぁ…。

蔵毛　そして半年後、こーんな４人の元に、新入部員が入ってくる。

真今井　あ、しまった。完全に申し遅れました。

私はこのタイミングで入部してくるマネージャー・真今井と言います。

もう少ししたら登場します。

【6】

野宮　白峰先輩…。
白峰　野宮くん。
野宮　白峰先輩っ。（とびつく）
白峰　うれしいぞ。よくぞこの「高天原高校サッカー部」に来てくれた。
佐反町　おい、誰だよ、そいつ。
白峰　私の中学の後輩である、野宮君だ。
野宮　野宮です。
白峰　実力は私が保証する。
野宮　いや、先輩にはとても及びませんが…。
白峰　当然だ。君が私に勝てるわけないだろう。
野宮　白峰先輩…（うっとり）。
白峰　彼を入部させるが異論はないか？
御器　異議なーし。

佐反町　俺も、中学の後輩を連れてきた。蒲郡、出てこいや。
蒲郡　蒲郡でーす。
佐反町　こいつはガチで超うめぇ。
蒲郡　いやー、佐反町さんには及びませんよ。
佐反町　当たり前だろ。
蒲郡　へへっ。
佐反町　こいつを入れるから、しくよろで。
御器　異議なーし。

白峰・佐反町　以上、新入部員は2名だ。
御器・野宮・蒲郡　ええっ。

御器　ふたりー？
野宮　お、俺たちだけなんですか？
蒲郡　聞いてねーっすよ。

御器　お前ら、ちゃんと勧誘したのかよっ。
白峰　ハッハッハ。したさ。不特定多数に声かけたさ。
佐反町　でも誰も来ねぇんだよ。４人しかいねぇサッカー部なんて…。
真今井　サッカー部には最強の四天王がいたんだけど…その４人しかいないという事実が、入部希望者をビビらせていたんですね。
蒲郡　でもコレ、たった６人じゃ公式戦出れねーんじゃねーですか？
佐反町　そーなんだよ。公式戦に出るには、最低でも８人必要らしい。
御器　あと２人か…。
佐反町　おい。お前の学年でいねーのかよ？　中学サッカー部だったやつとか。
蒲郡　中学サッカー部だったやつスか…。
佐反町　誰でもいいから連れてこいや。
蒲郡　サーセン。あ、いたっ。氏川ーっ。
氏川　え？　え？
蒲郡　氏川ちゃーん。久しぶりだなぁ。
氏川　あ、隣の中学のサッカー部だった、蒲郡クン…？
蒲郡　蒲郡クンです。氏川ちゃん。サッカーやろうぜ。高校でも、サッカーやろうぜ。
氏川　あー。あの、僕、高校ではハンドボールやるつもりだから…。
蒲郡　なんでだよバカっ。サッカーやろうぜ。よし、入部決定。
氏川　さっそく先輩に言ってくるわ。
蒲郡　ちょ、ちょっと待ってよ。
氏川　どうした？　何の壁がある？
蒲郡　葉枝クンに聞いてみないと…。
氏川　はえだ？
蒲郡　葉枝。
葉枝　（登場）久しぶりだな。蒲郡。
蒲郡　この声は…葉枝っ。
葉枝　葉枝だよ。お前の小学校からのライバル、葉枝だよ。

蒲郡　なんだよ。オメー、サッカーやんねーのかよ？
葉枝　あぁ。氏川と一緒に、ハンドボールをやろうと思ってな。
蒲郡　俺に負けたからか？　あ？　ビビってんのか？
葉枝　お前に負けたわけじゃねぇ。俺のいるチームが、お前のチームに負けたんだ。
蒲郡　一緒だよ一緒。中学最後の県大会、お前は俺に負けたんだよ。
氏川　葉枝クンは悪くないよっ。
　　あの試合は…僕のせいで、フリーキックをあげちゃったから…。
葉枝　やめろ氏川。お前のせいじゃない。
　　チーム全体の責任であり、キャプテンだった俺の責任だ。
氏川　葉枝クン…。
葉枝　ということで、とにかく俺たちは、サッカーはやらないっ。
蒲郡　どういうこと？
氏川　僕たちはハンドボールをやるんだよっ。行こう、葉枝クンっ。
　　わー（消える）

蒲郡　…どうしよう。部員が8人揃わねーと試合に出れねーしな…。
御器　俺が説得してみよう。
蒲郡　お任せします。
御器　こんにちは。「高天原高サッカー部」部長の御器です。
葉枝　部長？　6人しかいないサッカー部にも、部長がいるんですか。
御器　いるんだなーこれが。どうだ。サッカーをやる気はないのか？
葉枝　正直、サッカーは好きです。
御器　おっ。
葉枝　が、あのヤロー（蒲郡）は大嫌いです。
蒲郡　あ？
葉枝　あいつと一緒にサッカーはできません。
　　あいつがいなけりゃ、入部を前向きに考えます。
氏川　葉枝クンが入るなら、僕も入部を前向きに考えます。
蒲郡　何言ってんだテメーら。
白峰　…待ちたまえっ。

蒲郡くん一人がいなくれば、この2人が入部するわけだ。
これは、プラスマイナスを考えると…。
蒲郡　やめてっ。考えないで。
御器　どっちにしろ、8人には届かないぞ。
蒲郡　そういう問題じゃなくてっ。
佐反町　おいおい。蒲郡は俺が認めるヤローだぞ。
蒲郡　うっひょー(?)。
佐反町　そこの2人は、うめーのかよ？　あ？
比留　まぁまぁ、うまいかな。
佐反町　え？
比留　僕の後輩だよ。中学の。
氏川　ひっ…。
葉枝　ひ、久しぶりですね。比留先輩…。
佐反町　なんだよ。じゃあ最初から、おめーさんが連れてきなさいや。
比留　んー。でも、僕よりは、下手っぴだからなー。
佐反町　へたっぴ？
比留　うまいとは思うけど、僕たち「四天王」に比べたら全然だよ。
葉枝　マジすか先輩。
比留　まじまじ。へたっぴ。佐反町もさ、白峰もさ、後輩どーなの？
どれぐらいうまいの？
正直言って僕、自分以下のやつとはプレイしたくないんだよね。
…。
佐反町　どーよ。
比留　…野宮君だが、私たち4人と比べれば、レベルは落ちるな…。
白峰　しゅん。
野宮　まーな。そういういう話だと、蒲郡も、そこまでじゃねぇ…。
佐反町　しゅん。
蒲郡　じゃーダメだ。新入部員はゼロだねー。
比留　おいっ。
御器　だってヤじゃん。平均レベルが下がるの。
比留　平均レベル、とかじゃなくて、試合にならねーだろこれじゃ。
御器

比留　だったら、試合なんかしなきゃいいよ。
御器　比留。いい加減にしろ。
比留　なにななにに？
　　僕は全く間違ったことは言っていないと思うのだけど。
御器　…。
比留　僕たちより下手な人間は、入部させません。
葉枝　先輩。変わってないっすね。
比留　ん？
葉枝　あんた昔からそーだよ。義理も人情もあったもんじゃねぇ。
比留　へたっぴなお前が悪いんだよバーカ。
御器　いい加減にしてくれ、比留。
比留　…。
御器　…上手いとか下手とか、どーでもいいだろ。
　　サッカーが好きで、サッカーを愛してるやつは、入部させたい。
　　これは、部長としての俺の意見だ。
比留　…部長さんは、僕の意見を聞いちゃくれないのかい？
御器　聞くよ。聞くけどな。
比留　よくわかんないやつ入れるの、ヤだって言ったのに。
御器　比留…。
比留　言ったのにー（いなくなる）。
佐反町　ちょ、待てよ。…クソ面倒くせー。
白峰　蔵毛君。ちょっと、追いかけたまえ。
蔵毛　断るっ。
佐反町　なんでだよ…マネージャーだろ。
蔵毛　チームメイトのいざこざは、チームメイトが解決するもんさ。
佐反町　うぜー（比留を追う）。
御器　（葉枝に）…あの、一応俺が、部長なんだけど。
　　俺たちね、本当に生半可な気持ちでやってないんだ。
　　まぁ、生半可じゃなさ過ぎで、４人だけになっちゃったんだけど…。ただ本当に、強いから。本気だから。だから…こんな俺たちに…
　　「ビビッ」っときたら、入部してくれ。

氏川　…え？
蒲郡　「ビビッ」ときたら…？
葉枝　「ビビッ」ときたら…？
野宮　「ビビッ」ときたら…？
白峰　…部長のキメ台詞は、ダサかった。

蔵毛　しかし結果的に、この４人、
御器　蒲郡。
野宮　野宮。
氏川　氏川。
葉枝　葉枝。
蔵毛　は、高天原サッカー部に入部を決めた。
御器　逆に言うと、この４人しか入らなかった。これで部員は
佐反町　イチ。
白峰　ニ。
比留　サン。
野宮　ゴ。
蒲郡　シ。
氏川　ロク。
葉枝　ナナ。
御器　ハチ人っ。公式戦に出場できる最低ラインをクリアした。
白峰　ギリギリ、クリアした。
御器　よかった。これでやっと試合に出れるっ。
白峰　それでも、たったの８人じゃないか。
佐反町　おいおい、サッカーって１１人でやるもんだろ。
　　いまだにキーパーすらいねーじゃねぇかよ。
御器　たったの８人か…。
蔵毛　ちょっとちょっと。９人でしょ。
佐反町　おめーマネージャーだろ。
蔵毛　フフフ…ヒドいな…実にヒドい…。
真今井　そして、僕も入れれば、１０人になりますっ。

蔵毛　そうね。たしかに、あなたを入れれば10人になるワケ…
ってどなたっ？

【7】

真今井　マネージャー志望です。
蔵毛　マネージャー？
真今井　はい。僕、生まれつき身体が弱くって…
でも、一生懸命がんばってる皆の力になりたいんです。ハハッ。
よろしくお願いします。
蔵毛　あー、ごめんなさい。マネージャーはね、募集してないのよ。
ごめんなさい。
真今井　あ、いや、でも…何でもやりますからっ。
蔵毛　何でも？
真今井　掃除。
蔵毛　あら。
真今井　洗濯
蔵毛　やだ。
真今井　玉拾いっ。
蔵毛　いやん。
真今井　スコアボートをさらさらっ。
蔵毛　さらさらっ…ごめんなさい。
そういうのはね、全部間に合ってるから。私がやるから。
真今井　はぁ…。
蔵毛　あのね、誤解してるかもしれないけど、
マネージャーって雑用係じゃないの。
真今井　はい。
蔵毛　部員の体のこととか、心のこととか、
全部のお世話をしなきゃいけないワケ。
真今井　はい…。

蔵毛　あなたにそれができるの？
真今井　がんばります。
蔵毛　がんばればできるの？
真今井　できます。
蔵毛　できないわよっ。はぁ？　何でできるの？
あなた、何も知らないでしょう？　部員たちのこと？

御器　おお、マネージャー志望かっ。部長の御器です。
ようこそ、高天原高校サッカー部へ。
蔵毛　ヤダ？　認めるの？
御器　断る理由はないだろうっ。
蔵毛　入部する理由もないわよ。使えないんだもん。
御器　そんなの、お前がいろいろ教えればいいだろ。
蔵毛　イヤーっ（どっか行った）。
真今井　がんばります。よろしくお願いします。
御器　名前は、何てゆーんだい？
真今井　「真今井」です。

佐反町　新しいマネージャーが入ることを蔵毛は露骨に嫌がった。
白峰　自分だけがこの部の観察者で居続けたかったんだろう、
というのは私の憶測に過ぎない。
佐反町　ただ、真今井を入部させたがった御器の気持ちはよくわかる。
御器　新入部員たちのチームワークは…バラバラだったんだなぁ。

【8】

葉枝　見てんじゃねーよお前。
蒲郡　見てねーよ。
蒲郡　見てんじゃねーよ。
葉枝　見てねーよ。

佐反町　蒲郡と葉枝の仲は、相変わらーず悪く…

葉枝　氏川。もう帰るぞ。

氏川　あ、あ、待ってよ葉枝クンっ。

白峰　氏川君は相変わらーず、葉枝君にべったり…

野宮　白峰先輩。今日の俺のプレイ、どうでした？

悪いところがあれば、教えてくださいっ。

佐反町　野宮は、相変わらーず白峰にべったりだった…

御器　1年は1年で、がっちりまとまってもらわないと。

白峰　まったくだ。

御器　ということで、

マネージャーである真今井の存在が「いいように作用したらいいなー」

と部長、思ってます。部長、激しく思ってます。

真今井　が、がんばります。

【9】

真今井　よーし。みんなっ。遊びに行こうよ。

蒲郡　あ？

真今井　たまにはさ、1年だけで遊びに行こうよ。カラオケ行こうよっ。

氏川　葉枝クンが行くなら、行くけど…。

真今井　来るよ。葉枝クン来るよー。

蒲郡　葉枝が行くなら俺イカネー。

真今井　ちょ…。

蒲郡　カラオケ嫌いだし。歌とか嫌いだし。

真今井　歌わなくてもいいからさ、みんなでおしゃべりとかしようよ。

野宮　えー、でも、あんまり話すことなくなーい？

真今井　え？
野宮　いつも部活で話してんじゃん。
真今井　いや、サッカーのこと以外にもさ、
いろいろお互いのこと知りたいじゃない？
蒲郡　あ、俺サッカー以外興味ねーわ。
真今井　えー…。
葉枝　帰るぞ、氏川。
氏川　葉枝クン。葉枝クン。（消える）
野宮　まーまー。俺らはこんな感じで、いいんだよ。
真今井　…うん。そうだねっ。

【10】

蔵毛　良くないわよっ。。
真今井　はい。
蔵毛　うちの学年見てーっ。すごいコミュニケーション。
うちの学年はすごいコミュニケーションできてるの。
1年できてないの。
真今井　はい。
蔵毛　どげんかせんと。この差をどげんかせんと。あーなーたーがっ。
真今井　せ、先輩方は…どうやってるんですか？
蔵毛　ん？
真今井　先輩方の信頼関係は、どうやって生まれてるんですか？
毎日毎日、カラオケに行ってますが…
どういうことをしているんでしょうか？　なにか秘訣とか…。
蔵毛　…秘訣？　それは…フフフ。
真今井　…く、蔵毛さん？
蔵毛　秘密だよ。

【11】

蒲郡　つーか、真今井うざくね？
野宮　ヘラヘラヘラヘラ、何考えてっか、わかんねー。
葉枝　とりあえず、絡みにくい。
氏川　悪いやつじゃないんだけどねぇ。
蒲郡・野宮・葉枝　ねー。
真今井　仲良くしようよー、みんなー。
蒲郡・野宮・葉枝　ひー。

御器　真今井が入部しても、相変わらーず1年の足並みは揃わない。
佐反町　どーすんだよ。大丈夫ですかコレ？。
比留　いいじゃん。1年は1年。僕たちは僕たちだよ。
白峰　しかし、この8人で試合に出るんだ。
1年の現状が、まるで無関係とは言えないだろう。
比留　じゃー、ミーティングだね。カラオケ行こうよカラオケ。
御器　あ、ごめん。俺、今日は、用事が…。
比留　ないない。
御器　え？
比留　用事なんてないよ。カラオケ行こ。
御器　…。

蔵毛　1年のバラバラを尻目に、
四天王は相変わらーず、やることばかりやっていた。カラオケで。
私？　私だって相変わらーず、そんな4人をアッハッハ。
覗いていたってワケ。

蔵毛　そんな相変わらーずの状態を、変えたのは、野宮だった。
野宮　俺でした。

【12】

野宮　白峰先輩っ。好きですっ。
白峰　野宮君ありがとう。私も君が好きだ。
野宮　よっしゃー。やったー。
白峰　うむ？
野宮　じゃあ、付き合ってくれるんですね？　先輩っ。
白峰　ん？　付き合う？
野宮　はい。俺と、付き合ってくださいっ。
白峰　それは、できない相談だ。
野宮　へ？
白峰　私の青春は、すべてサッカーに捧げている。君に割く時間などない。
野宮　割いてください。
白峰　できない。
野宮　そこをなんとか。
白峰　できない。
野宮　もうひと越え。
白峰　できない。
野宮　ちくしょー。先輩と付き合えなかったら、俺、自殺しますから
白峰　え？
野宮　自殺しまーす。
白峰　それは困ったー。

【13】

白峰　どうしたらいいだろう。
佐反町　知らねーよ。お好きにしなさいや。
白峰　お好きにしなさいや、と言われても…私も自分で自分がどうしたいのか、とんとわからず、君たちに聞いているのだよ。
佐反町　いや、だから知らねーよ。お好きにしなさいや。

比留　ダメだよ。
白峰　ほ？
比留　そんなのダメじゃん。だって、白峰は僕たちのものなんだから。
白峰　…そうなのか？
比留　そうだよ。ねぇ？
御器　いや、そうじゃねぇよ。別に。
比留　でもさ、この４人の中から、誰か一人でも抜けるのはダメじゃん。
御器　抜けるって？
比留　誰かの特別な人みたいになる、ってこと。ダメじゃん。
白峰　恋人ができる、みたいなことかな？
比留　そそ。ダメじゃん。
佐反町　え？
比留　ん？
佐反町　俺、彼女いるけど…。
比留　…ん？
佐反町　え？
比留　…ウソでしょ？
佐反町　いや、マジマジマジ。だって俺…。
比留　あああああっ？
佐反町　…。
比留　…いつからそれ？
　　あ、いつからとかいいや。別れて。
　　今すぐ別れて。二度と会わないで。
佐反町　…。
比留　ダメじゃん。全然ダメじゃん。何でそーゆーことするかな。
佐反町　…。
比留　壊れちゃうよ。僕たち。いいのそれ。
佐反町　…この後、比留はものすげー勢いで泣きだしたから、
　　メンドくせーから放置して帰った。

【14】

白峰　とにかく、正直に話すしかない。おーい、野宮くぅーん。
野宮　はーいっ。
白峰　私は、いや、私の学年では、カラオケボックスの中で乱交、すなわち4人での淫らな行為を習慣的に行っている。その行為は、決して互いに対する愛情の発露ではなく、チームメイトとしての信頼関係を確認する作業に過ぎないが、互いのリビドーを貪り合う極めてデリケートなものであるからして…。
佐反町　どうしたどうした…しっかりしろ。
白峰　ほ？
佐反町　サクっと言えよ。
白峰　同学年との結束を優先させてもらう。君とは付き合えない。サクッ。
野宮　え？　カラオケで…？　え？
白峰　うむ。私たちは、カラオケボックスで、乱交している。
野宮　いやー。
佐反町　この後、野宮はものすげー勢いで泣きだしたから、メンドくせーから放置して帰った。

御器　いや、マズいだろっ。
佐反町　ん？
御器　普通に断われよ。カラオケボックスとか乱交とか、その辺はボカせよー。言わなくてよかったよー。
白峰　いや、正直に話すことが一番だ。こと同じチームメイトに関してはな。
御器　大丈夫か野宮。部活辞めたりしないよな。

蔵毛　野宮は、部活は辞めなかった。
御器　よかった。
蔵毛　が、これ以降、事態はどんどんやっかいになっていく。
御器　マジですかー。

【15】

野宮　…。

蒲郡　お？　どうした野宮。

野宮　…。

蒲郡　お前…平気か。すごい鼻水だぞ。

野宮　フラれた…。

蒲郡　え？　誰に？

野宮　白峰せんぱい…。

蒲郡　おぉ。そりゃしょーがないよ…。

野宮　お前が白峰さん好きでも、向こうは普通に女が好きだよー。

蒲郡　そうじゃないんだよ…。

野宮　え？

蒲郡　先輩たちはさぁ…実はさ…。

蔵毛　…野宮は、2年がカラオケボックスで何をやっているのかを話してしまう。

蒲郡　ええっ。カラオケボックスで、乱交…？

野宮　何でしょう、その、エロゲーみたいな設定…。

蒲郡　先輩を先輩たちに盗られた…。

野宮　私の方が、先に知り合ったのに…中学から一緒なのに。

蒲郡　まーしょうがない。それはしょうがない。帰ろう帰ろう。

野宮　ピコーン。

蒲郡　…野宮？

野宮　…フンー（蒲郡の腕を掴む）。

蒲郡　…野宮？

野宮　フンー。

蔵毛　白峰にフラれて、自暴自棄になった野宮は…
勢いで蒲郡をレイプしてしまう。
蒲郡　え？　え？
蔵毛　野宮は、勢いで蒲郡をレイプしてしまう。
野宮　勢いで、レイプします（キメ顔）。
蒲郡　えー。何その…エロゲーみたいな展開…。
野宮　白峰先輩…白峰先輩…うおおおーっ。（蒲郡を殴る）
蒲郡　痛ぇっ…テメーふざけてんじゃ…。
野宮　うあーっ。（蒲郡をボコボコにする）
真今井　（入って来た）ねぇねぇ、今度皆で一緒にボーリングとか行かない？
そんでプリクラとか撮ってさ、部活以外の思い出を…
って何してますかーっ。
野宮　レイプです。
真今井　なんですとっ。
野宮　明らかに暴力が介在しています。これは、レイプです。
真今井　うわあああ。た、大変だー。
葉枝くーん。氏川くーん。二人を止めてくれー…って、あれ…？

葉枝　真今井…（氏川と抱き合っている）。
真今井　な…何してんの？
葉枝　見たな…真今井。
真今井　あ、み、見てないです。何も見てないです。
葉枝・氏川　見ーたーなぁー…。
真今井　ぎゃあああああ（トラウマ）。
先輩、先輩方ーっ。助けてくださーい。
うちの学年が、大変なことになってます…。

先輩たち４人、抱き合っている。

真今井　うわあああああっ。なんだこれーっ。

蔵毛　ショッキングな事実、に立て続けに襲われた真今井は、飛び出した車道で2トントラックに跳ねられ全治一ヶ月の重傷を追う。

真今井　マジすか…。

蔵毛　知りたくない事実を知り、知られたくない事実を知られた部員たち…。気まずい空気が漂いまくる。この時代のことは後に「雰囲気ギクシャク時代」と呼ばれる。

真今井　誰が呼んでるんですか？

蔵毛　私だよ。

佐反町　公式戦を一カ月後に控え、やってきた練習試合のシーズン。

白峰　こんなギクシャクな8人で、県内のさまざまな高校に練習試合に行った。

佐反町　よーし。いくぞー。

御器　昨年末に四天王だけで県内勢を下していた我らが高天原高校サッカー部。8人しかいないけど、去年に比べ人数は倍。

蔵毛　当然戦力だって2倍3倍に…。なるわけないよ。結果は惨敗。一勝を勝ち取ることもできなかったんだね。

真今井　チームワークは最低だった。各々が各々のプレイのことしか考えていない。パス一本もロクに通らない。

御器　これで決定的となったことが2つある。「四天王時代」の強さの秘密は、やはりその結束力にあったんだ。

蔵毛　そして、今のチームには、その結束力が、まるでない。

【16】

部員一同。試合のビデオを見ている。

佐反町　おい。蒲郡。ワントラップじゃねぇよボレーだろここ。
蒲郡　サーセン…。
佐反町　ほら、ボール伸びねてねぇだろ。クソかお前。
白峰　佐反町君。黙りたまえ。見てるんだ。
佐反町　あ？　んだとコラ？
白峰　私たちは、ビデオを見ているんだ。黙りたまえ。
佐反町　あ？　叩き殺すぞテメー…。
蒲郡　すみません。自分が悪いんです。
白峰　君が悪いのはわかってるよ。君がクソだと言うこともね。
比留　今のとこもう一回見たいなー。
真今井　は、はい。えーっと、巻き戻し…。
佐反町　葉枝。コーナーびびってんじゃねぇよ、頭出してなんぼだろっ。氏川、何うろちょろしてんだよポジションとられてんじゃねーよっ。
御器　もういいっ。こんなん見てもイミねぇ。
佐反町　…。
御器　負けた試合見ながら、あーだこーだ言っても、どーしもよーもねーだろ。
佐反町　…。
御器　俺たちはな、俺たち四天王はな、たった4人でも勝ち続けてきたんだよ。…それが1年が入ってきて、人数増えて負けるって、どーゆーことだよっ。
比留　…どーゆーことだぁ？
御器　…もっと問題は、でけーとこにあんだろ。な、蔵毛。
蔵毛　私？　私わかんない。真今井、わかる？
真今井　え、ええっと…。
御器　（蔵毛に）バカなフリすんなよ。言えよ。
蔵毛　…8人が信頼し合ってないよね、どー見ても。プレイがつながんないじゃない。つなげようとしてないじゃない。
御器　…。
蔵毛　これじゃ無理だよ。

御器　どーにかしようぜ。こんなんじゃ、公式戦も結果が見えてる。
比留　どーにかするって？
御器　どーにかするんだよ。チームとして、まとまるんだよ。
野宮　…どうやってですか？　先輩達みたいに、乱交でもします？
真今井　ちょ、ちょっとっ…。
野宮　いいですよ。エッチしましょうよ。カラオケ行って、ヤリまくりましょうよ。
御器　…野宮。うるせぇ。真剣なんだよ、こっちは。
野宮　…。

蔵毛　で、どーすんの？
野宮　…。
蔵毛　だから、どーすんの？

佐反町　あ、すみません。一言、モノ申していいっすか？
御器　…。
佐反町　俺は「本音」が聞きてーな。全員の本音だよ。公式戦までもう時間がねぇ。この際だ。おのおの各自、ハラん中にためてるもん、全部ぶちまけようぜ。ぶちまけて、わかり合おうぜ。

真今井　佐反町さんのこの提案がきっかけて、事態は…さらにややこしくなってしまう。

野宮　俺は、白峰先輩が、好きですっ。
白峰　ありがとう。
野宮　結婚してくださいっ。
白峰　ん？　けっこん…？
佐反町　おい。じゃーお前にとって、蒲郡は一体なんなんだよ。
野宮　さみしくてっ。
佐反町　あ？

野宮　さみしくてやっちゃっただけです。好きでもなんでもないです。
佐反町　お前、ヒドくね？
御器　蒲郡に謝れ。
野宮　すまんっ。
御器　軽すぎんだろっ。
野宮　まぁ、そんな話はさておき…。
佐反町　いや、さておかねーよ。さておけねーよ。
野宮　白峰先輩の本音はどーなんですか？
白峰　私の本音？
野宮　俺のこと、好きなんですか？
白峰　だから、好きとか嫌いとかではなく、私はサッカーに青春を捧げているのであって…。
野宮　サッカーとかじゃなくて、俺のこと、好きなんですか？
白峰　本音を聞きたいですっ。
佐反町　本音か…。
白峰　いや、白峰、ここはガツンと言っといた方がいいぜ。
佐反町　本音を言わせてもらえれば…私は、佐反町君が好きだっ。
白峰　残念だったな野宮。そういうことだからもう諦めろ…って、
佐反町　えーっ。
一同　どういうことですかーっ。
御器　私は、佐反町くんが好きだ。もちろんそれは、エロい意味でとらえていただいて結構っ。
白峰　「結構」じゃねーよ。なんだよ、それ。マジかよっ。
佐反町　さ、佐反町。…お前はどうなんだ？
御器　え？　俺？
佐反町　言わなくていい。私は私の本音を吐露したまでだ。
白峰　返事が欲しいわけではない。
比留　いーや。僕、聞きたいなー。どーなの？
葉枝　どーなんすか先輩？
蒲郡　先輩？

御器　本音は言うだけ、言っておこう。
佐反町　と、と、とりあえず、ビックリだし。
葉枝　ハイ、ビックリした。ハイ。
佐反町　そもそも俺は、男が好きじゃないからね。
葉枝　え？　じゃあ、何なんですか？
　なんで先輩方は、乱交してるんすか？
佐反町　いや、それは「友情」だよ。
葉枝　友情？
佐反町　友情だよ。
葉枝　乱交が？
佐反町　乱交が。
葉枝　そんな友情、なくないすか？
佐反町　しょーがないよ。あるんだもん。現にあるんだもん。なぁ、御器。
御器　まぁ、そうだな。
　俺たちは「友情」のひとつの形として、去年からそういうことを…。
比留　ああああああっ？
佐反町　…。
比留　違うでしょ。僕たちにあるのは「友情」じゃないでしょ。
御器　…え？　じゃあ何なの？
比留　愛。
御器　愛…？
佐反町　いや、愛じゃねーだろ。
比留　愛だよ。え？　今まで君たちはさ、友情で、してたの？　僕と。
佐反町　友情…だと思ってましたけど？
比留　えー…すげーふざけんなだよソレ。えー。
御器　いや…だって…。
佐反町　…俺、彼女もいるしなぁ。
比留　だから、なんでだよっ。おかしーだろーがよっ。
佐反町　…おかしくはねーだろ。
比留　じゃあ、何なの？　僕たち４人は。
佐反町　だから…友情だろ。

御器　友情だよ。
白峰　友情ではないのかね？
比留　…乱交、フレンド？
佐反町　乱交フレンド。
御器　乱交フレンド。
白峰　正しくは、乱交フレンズ。
比留　…わー。死にたい。
佐反町　え…？
比留　「友情」で、「友情」でセックスされたやつの気持ちなんか…
　　わかんないよね。
　　…。
佐反町　死にたい。今すぐ死にたい。
比留　死ぬな。
御器　俺も死にたいっす。
野宮　お前も、死ぬな。生きろ。
御器　だからホラ、葉枝と氏川がセックスしてんのも、それ友情だろ？
佐反町　友情じゃないっすよ。
葉枝　あら？
佐反町　俺らは、愛し合ってるんですよ。あ、すみません、ストレートに言っちゃいましたけど、俺らは、愛し合ってるんです。なぁ、氏川。
葉枝　…え？
氏川　え？
葉枝　…あれ？　そうだっけ？
氏川　ウソウソウソ。
葉枝　ちょっと待て氏川。
御器　今、ワリと全体的に混乱している。不用意な発言には注意したまえ。
白峰　いや、でも、「本音」なんで…。
氏川　まぁ…この際だ。言うしかねぇな…。
佐反町　（葉枝）いや…僕ら…セフレっしょ。
氏川　いやいやいや、違うよ。恋人でしょ？
葉枝　いや…僕ら…セフレっしょ。
氏川

葉枝　いやいやいや、違うって。恋人だって。
氏川　だって僕、野宮クンのことが好きだもん。
一同　はぁー？
葉枝　う、氏川ぁー。
氏川　でもでも、野宮クンは、白峰先輩が好きだから、僕はこいつ（葉枝）を肉体的にキープしておきます。
佐反町　ハッキリ言ったっ？
葉枝　なんだよ？　じゃあ俺は、単なるセフレかよっ。
氏川　セフレだよ。世界にたった一人の、かけがえのない、セフレだよ。
葉枝　嬉しいやら…悲しいやら…。
佐反町　悲しんで。そこは悲しんでっ。
蒲郡　（氏川に）待てコラ氏川ーっ。なんだよそれっ。
氏川　葉枝の気持ちはどーなんだよっ。
蒲郡　が、蒲郡クンには関係ないだろっ。
氏川　関係あるよっ。
蒲郡　なんでだよっ。
葉枝　俺は…葉枝が好きだから。
佐反町　え…？
蒲郡　…お前、何言ってんだ？
佐反町　この高校に入ったのも、葉枝がいるからだから…。
蒲郡　…うん。あの、お前は何を言っているんだ？
一同　俺は、葉枝が好きだからっ。
御器　はぁー？
蒲郡　え、じゃあこれまでのお前の態度はなんだったの。
御器　喧嘩とかしてたじゃない。
蒲郡　愛情の裏返し？
蒲郡　あらわかりやすい。
葉枝　そういうわけだ、葉枝…俺と付き合えっ。
蒲郡　…いや、ヤだよっ。なんでお前と付き合わなきゃいけねーんだよっ。
葉枝　なんだよ。じゃーお前、氏川のセフレでいいのかよ。
蒲郡　俺はお前を愛してる。大事にできる。

葉枝　うるせぇ。野宮にレイプされたくせにっ。
蒲郡　なんだよ…優しくしろよっ（？）。
葉枝　ヤだよっ。
蒲郡　お前なぁ…お前のそーゆー冷たいトコ、マジで…好きなんだよ。
御器　何なんだよっ。何なんだよこの話っ。（本当に）
蔵毛　ちょっと待ってっ。この中に、まだ、本音を言っていない者がいるわ。
御器　…え？
蔵毛　御器。御器。あんたは一体、誰が好きなの。
御器　いやいや、好きとかねぇよっ。誰も好きじゃねーよ。
蔵毛　でも、強いて言うならば？
御器　は？
蔵毛　強いて言うならば、誰が好き？
御器　え…それ、強いて言わなきゃダメ？
蔵毛　ダメ。ダメな空気よ。みんな喋ったんだもの。

一同、「御器」「御器さん」「部長」と詰め寄る。

御器　俺は…強いて言うなら、俺は…蒲郡が好きかな。
蒲郡　や、俺、御器先輩、マジ無理です。
　　マジ無理ですマジ無理です、サーセン。
御器　ほらーみろー。強いて言ってみたら、無駄に傷付いただろー。
　　だからヤだったんですー。
白峰　心から謝罪したい。
真今井　…なんなんだよ、この部活…。何が何やらさっぱりわからないよ。
蔵毛　ってのをまとめておいたわ。
真今井　さすが先輩。
蒲郡　俺は、葉枝が好きだから。
葉枝　俺は氏川が好きなんだって。
蒲郡　いや…僕ら…セフレっしょ？

葉枝　うそーん。
氏川　僕は、野宮クンが好きだけど…。
野宮　俺は白峰先輩が好きなんです。
氏川　だから僕は葉枝をキープ。
葉枝　複雑ー。
野宮　でも白峰先輩は…。
白峰　私は佐反町君が好きだ。
野宮　ショックのあまりこいつをレイプっ。
蒲郡　アーッ。
佐反町　俺はフツーに彼女が好きだよ。
白峰　わかっていたよ。
御器　強いて言うなら、俺は蒲郡が好き。
蒲郡　マジ無理ですマジ無理ですマジ無理です。
御器　無駄に傷ついた。

比留　僕は…。僕は…。
真今井　わかんないですね。
蔵毛　わかりすぎるくらいわかるわ。
　あいつはね、四天王、みんなのことが大好きなの。

【17】

真今井　各々が胸に抱えた本音を吐きまくったけど、結果として、誰ひとり幸せになれなかった。
蔵毛　それぞれが実らぬ恋に気持ちを奪われていた。この時期のことは、後に「大ラブコメ時代」と呼ばれる。
真今井　誰が呼んでるんですか？
蔵毛　私だよ。
真今井　はぁ…。
蔵毛　で、このラブコメ状態のまま、公式戦をむかえてしまう。

真今井　その結果は…。
蔵毛　地区大会、敗退。

【18】

御器　もうやだ…。こんな足並み揃っていない状態で、試合になんか出たくない。
白峰　私も同じ気持ちだ。
佐反町　おい。どうやら俺ら、来年で卒業らしいぞ。
御器　マジか。
佐反町　もう後悔なんかしたくねぇ。なんとしても、納得のいくコンディションにもっていくんだ。
御器　そうだな。同じ失敗はもうしたくない。
比留　失敗かー。失敗ねー。
佐反町　…何だよ。
比留　ねぇ。カラオケ行かない。久しぶりにさ。
佐反町　…いかねぇよ。
蔵毛　公式戦で惨敗を喫して以来、四天王はカラオケに行かなくなった。が…比留は、比留だけは一人で毎日、カラオケに行っていたんだね。

真今井　1年のギクシャクはピークに達していた。
もう誰も一言も、言葉を交わしません。
4人　ツーン。
真今井　あぁ、待って…行かないで…。
御器　どうすればチームの雰囲気がよくなるのか。
それは誰にもわからなかった。
佐反町　新入部員だ。
御器　え？
佐反町　新入部員が入れば、空気変わるんじゃね
ムード良くなるんじゃね？

白峰　そうか。新入部員か。
御器　そうだな。新入部員だな。
３人　アハハ。アハハ。
御器　新年度になり新入部員が入れば、チームの雰囲気がよくなり、いよいよ俺達の青春時代が始まる。
真今井　しかし、その新入部員の中に、とんでもない問題児がいたわけで…。

【19】

宇津保　問題児？　それは私のことですか？
真今井　きみ以外に誰がいるの？
宇津保　問題児だなんて、心外ですねー。
私ほど優秀な人材を捕まえておきながら。

佐反町　宇津保。U―15全日本ユース出場経験アリ…ってマジかよ。
宇津保　信じられないなら、信じなくていいですよ。
佐反町　いや、信じないぜ。
御器　なんでうちみたいな公立学校に。
宇津保　親の都合で。転勤で。
白峰　君みたいなプロ予備軍が、うちの部に入部してくれるのか？
宇津保　私みたいなプロ予備軍が、入部してあげましょう。
入部してあげましょうともっ。
一同　おおー。
佐反町　戦力アップや…。大幅な戦力アップや…。
御器　ポジションはどこなんだ。好きなところに入ってもらって構わないぞ。
宇津保　では、遠慮なく選ばせてもらいます。
御器　おお。
宇津保　プロ予備軍の万能サッカープレイヤー。そんな私が希望するポジションは…「マネージャー」で、お願いしますっ。
佐反町　…マネージャー？

御器　なんでー？

宇津保　私は、ゆくゆくは監督のプロライセンスを取得しようと考えています。競技力は十分すぎるほどあるので、あとは指導者としての実践あるのみ。ということで、私が、この部を監督し、日本一のチームにしてみせます。

御器　ヤバい…こいつ、明らかにヤバイ…！

真今井　マネージャーは募集してないんだよ。

宇津保　え？　え？　え？

真今井　掃除とか、洗濯とか、玉拾いとか、そういうのもね、間に合ってるから。私がやるから。

宇津保　え？　え？　え？

真今井　あのね、誤解してるかもしれないけど、マネージャーって雑用係じゃなくて、部員の体のこととか、心のこととか、全部をケアできなきゃいけなくて…。

宇津保　え？

真今井　え？

宇津保　そういったことは先輩、あなたにお任せしましょう。

真今井　え？

宇津保　私の実務はあくまで「監督」。ゲームの組み立て、チームの編成を行うのです。

真今井　く、蔵毛先輩…。こんなやつマネージャーにしていいんですか？

蔵毛　いいんじゃない？マネージャーって言っても事実上の監督でしょ。必要よー。

真今井　えええっ、でも…。

蔵毛　やってもらおうじゃないの。それに私、サッカーのルール、いまいちよくわかってないし…。

真今井　衝撃の事実が今、明らかにっ。

【20】

蔵毛　この宇津保以外に入ってきた新入部員は、3人よ。
一同　3人？
佐反町　さ、3人っていくらなんでも少なすぎんだろ。
蔵毛　入部希望者はたくさんいたのよ。それを…
白峰　宇津保くんが選定してしまった。
佐反町　センテイ？
白峰　入部希望者に対して、入部試験を行ったんだよ。
佐反町　入部試験？
一同　はぁー？

【21】

宇津保　入部希望者の諸君。三日間にわたる入部試験、よくぞ頑張ってくれた。これから試験の合格者、つまり、我が部への入部を認められた者を発表する。

宇津保　切れ味に定評のあるカミソリシュート、羽生。
羽生　羽生でーす。俺のシュートは、よく切れるぜー。
宇津保　フリーキックの魔術師、香森。
香森　香森でーす。フリーにやっちゃうよー。
宇津保　そして、敵を欺くシャドーストライカー。九門。
九門　九門です。欺きまーす（直球）。
宇津保　以上の三名だ。ようこそ、高天原高校サッカー部へ。

佐反町　おい、何やってくれてんだ。
宇津保　はい？
佐反町　入部試験って、何やってんだよ。
宇津保　一定レベル以上の選手を求めるのは当然のことです。

佐反町　いや、そりゃそーだけど…3人はねーだろ。
もうちょっい入部させてよー。
御器　部長としては、サッカーが好きなやつは誰でも入れたいんだが…。
宇津保　雑魚を入れる必要はないありません。
御器　せめて、キーパー欲しかった…。
宇津保　大丈夫です。この3名の実力は申し分ない。
先輩方にヒケをとりません。

御器　という宇津保の言葉は正しかった。
白峰　新入部員は、いずれも優秀な人材ばかりだった。
宇津保　特に優秀なのが。
羽生　羽生です。カミソリシュートオオオッ（すごいの出ちゃう）。

佐反町　へたしたら2年より使い物になるな。
蒲郡　そんなー先輩…。
佐反町　いや、まじで。
蒲郡　…。
羽生　（蒲郡に）あ、先輩。ドリブルとかしないでガンガン俺にパスください。
全部決めちゃいますから。へへへ。
蒲郡　…。

御器　宇津保はそのおそるべき統率力で、1年をまとめ上げていた。
宇津保　よし、一年集合っ。
白峰　宇津保君を中心に、1年は盤石な一枚岩となっていた。
宇津保　私たちが新しい時代を創るぞー。
羽生・香森・九門　創るぞーっ。

御器　しかしこの状態は、チーム全体からみれば全く歓迎できるものじゃない。
白峰　新入部員が入ったというのに、チーム全体のギクシャクは治らなかった。

佐反町　あーあ。ってか、比留？　比留はどこ行った？
白峰　あれ？

真今井　新入部員3名が加わり、これでようやく11人。やっと11人。
蔵毛　人数は増えたけど、不安は増す一方だね。これで戦えるの？
真今井　この11人として初の練習試合が決まった。チームとして、いよいよ本格的に動き出すことになる。とりあえず、ポジションどうするんだろう。あれ？　キーパーは誰がやるんですか？
蔵毛　チーム編成のミーティングの前に、ささやかな事件が起こったので紹介しまーす。

【22】

羽生　おい。香森。
香森　おーどうした。
羽生　おめーよ…うちの姉ちゃんとなんかあったべ？
香森　お前の姉ちゃん？
羽生　この前、うちに遊びに来た後でさ。
香森　あぁ。まー、いろいろあったな。
羽生　え？　なに？
香森　ふつーに連絡先交換して、ふつーに遊ぶようになって、で…ふつーにエッチしたけど。
羽生　おいっ。オメー馬鹿だろっ。
香森　なにが？
羽生　うちの姉ちゃん結婚してんだぞっ。姉ちゃんの家庭壊すなよっ。
香森　待って待って。誤解してる。おまえの姉ちゃんからだよ。姉ちゃんの方から、俺を誘ってきたんだからね。
羽生　関係ねーよ。何してんだよっ。
九門　おい、やめろよ二人とも。
香森　まぁ、どっちかって言ったら、九門のおふくろさんの方が、タイプだけ

どな。

九門　そう。こいつは俺のかーちゃんと…ん？　ちょっとちょっと、ヘイ。

香森　なんや？

九門　え、うちのかーちゃんと、何かあった？

香森　…聞いてない？

九門　聞いていませんけど？

香森　…言ってとくけど、おふくろさんの方から誘ってきたんだからね。

九門　殺すよ。

香森　殺さないでっ。

九門　お前、何考えてんの？

香森　何も考えてないよ。なりゆきに身を任せるだけさ（笑顔）。

九門　お前…よくこの状況で、そんな爽やかな笑顔ができんな。

羽生　宇津保。どうにかしてくれよ。

九門　とりあえず、殺していい？　撲殺していい？

香森　何でだよっ。俺は悪くねーよ。

羽生　姉ちゃんの家庭、ボロボロだよ。

九門　うちの母ちゃんも、実家帰っちゃたよ…。

香森　いやいや、俺は一切悪うございません。

宇津保　むこうからですから。むこうからですからっ。

九門　そんなくだらないことで、モメている場合じゃないだろっ。

羽生　くだらないって…。

宇津保　うちの姉ちゃん、離婚しそうなんだけど…。

羽生　初の対外試合が迫っている。これまでのパスやシュート、コンビネーションの練習とは違い、チームを意識したプレイが必要になっていく。

宇津保　…。

香森　チームメイトを…信じるんだ（強引）。

宇津保　だな（笑顔）。

蔵毛　…。

香森の「同期の家族とやっちゃった事件」は、1年の中に微妙なしこりを残したのであった。

羽生　いやいやいや、「ビミョー」じゃないっすよ。
九門　ヤですよ俺こいつっ。
宇津保　チームメイトを…信じるんだっ（マジ強引）。
羽生　わかったよもーっ。

【23】

比留、一人でカラオケボックスにいる。

佐反町　テメーッ。比留。
比留　…。
佐反町　部活サボって一人カラオケかコラ。ナメてんじゃねーぞ。
御器はやさしーから、シカトしてくれてっけど。
比留　…。
佐反町　…何かあったのか？
比留　…いや、これが、何もないんだよね。
佐反町　何もねーなら、練習出なさいやっ。
比留　…部活、楽しい？
佐反町　楽しいだろ。
比留　ふーん。
佐反町　…何か、あったのかよ。
比留　…。
佐反町　…あ？　お前さん、まさか、「部活辞めたい」とか、そういう感じのことお考えですか？
比留　やめねぇよ。
佐反町　…。
比留　やめたく、ないよ。…でも、続けたくも、ない。
何も、ないの。本当に、何も、ないの。
佐反町　…この後、比留は、ものすごい勢いで泣き出したから
メンドくせーから放置して帰った。

宇津保　ミーティングターイムッ。

【24】

佐反町　勝ちたい。

佐反町　とにかく、勝ちたい。

佐反町　とにかく、勝てるだけ勝ちたい。

佐反町　とにかく、勝てるだけ勝つ為に、勝利という目標達成の為に、俺たちに必要なものは一体何だ？

佐反町　白峰。

白峰　うむ。

佐反町　白峰。

白峰　我々に必要なのは、最高のチームワーク。チームがひとつとなり、試合に臨むこと。それに尽きる。

佐反町　最高のチームワーク。その最高のチームワークを築く為に、俺たちはどーしたらいいんだ？

白峰　具体的には、考え中だ。

蔵毛　簡単じゃなーい。みんなでひとつになるんでしょ。そんなの、簡単じゃない。

佐反町　蔵毛？

蔵毛　セックスッ。

佐反町　…は？

蔵毛　セックスだね。みんなでセックスしよう。

佐反町　…え？

蔵毛　2年前、そうやって仲良しになれたじゃないの。
　あなたたち四天王は。
御器　そ、それは…。
羽生　先輩…ちょっと意味がわかんないんですけど…。
蔵毛　今の3年はかつて、肉体関係を結んで開いたことで、つよーい信頼関係を築いたわけ。
羽生　へぇー。
蔵毛　それをもう一度やりましょうって言ってるの私は。
羽生　へぇー…って、いやいやいや、おかしいですよ。なんですかソレ。
蔵毛　セックスッ。この、11人でセックス。乱交しちゃったらいいじゃないの。
羽生　ええー…。
宇津保　なるほど。それはつまり「乱交イレブン」…と、いうことですね(?)。
蔵毛　そういうことよ。
佐反町　…どういうこと?(素直に)
蔵毛　それくらいやらなきゃ、ひとつになんかなれないゾ。
　ってことで「乱交イレブン」に一票。
白峰　(挙手)いや、二票だ。
佐反町　し、白峰? マジか?
白峰　きかっけは些細な事故だった。あの時の私達は友情と愛情の境界線を見失っていた。とは言え結果的にはオーライ。肉体関係を結んで開いたことで、我々四天王がどえらい絆を築くことができたのは事実。ならば、やってみる価値は大いにある。「乱交イレブン」、いや正しくは。「乱交イレブンズ」。それに一票。
野宮　俺も一票です。
佐反町　野宮?
野宮　俺、白峰先輩に抱かれたいんですっ。
御器　いやいやいや、白峰だけじゃないぜ? 全員とだよ?
　全員とヤるんだよ?
白峰　その通り。私は全員、抱くよ(!)。
野宮　それでもいいんです。白峰さんに抱かれるならっ。
　乱交イレブンに一票。

氏川　すかさず、もう一票。
御器　氏川どうした？
氏川　野宮クン。
野宮　はいっ。
氏川　僕は、野宮クンを犯したいよ。これでもかってくらい犯したいよっ。
　　だから一票。
野宮　バッチコーイっ（？）。
葉枝　じゃー俺もー。氏川犯すー。
蒲郡　じゃー俺もー。そんな葉枝を犯すー。
真今井　ま、待ってよ、みんなっ。そんな、なし崩し的に乱交だなんて、よくな
　　いよっ。
宇津保　一年はどうだ？　乱交イレブン、どやさ？
九門　一年は……ワリと、ドン引きです。
宇津保　おや？
九門　どうする？
羽生　いやいやいや、無理だよ。なんで乱交する流れになるんだよ。
香森　いや…ここは…ガツンとやっとこう。
羽生　は？
香森　乱交…コレ実際、やったほうがいい。
羽生　香森。マジかお前？
香森　なんか、先輩方のハナシ聞いてたら、乱交がベストな気がしてきた。
羽生　いや、それ絶対洗脳されてるから。この場の勢いに。
九門　つか、俺やだよ。童貞だよ。初体験が男とかおかしいでしょ。
香森　ナメんてんじゃねえっ。乱交でチームがひとつになれるんだよ。
　　童貞とか童貞じゃねーとか、この際問題じゃねーだろ。
九門　…たしかに…そーだな（納得）。
御器　ご納得いただけた…？
羽生　…つか俺、先輩たちは別にいいんだよ。
香森　どーゆーことだ？
羽生　お前だよ。お前だけは、マジ勘弁だよ。
香森　なんでだよ。

羽生　だってお前、俺のねーちゃんとヤっんたろ？
　　んなやつとやりたくねーよ。
香森　なめてんじゃねーよ（一喝）。
　　ここは、やいのやいのゆーてますけど、やるしねーだろっ。
羽生　…たしかに、そーだな（納得）。
宇津保　一年の意見はまとまりました。
佐反町　え…じゃあ…ひとまずは、11人で乱交、つまり「乱交イレブン」な感じかな。
一同　オスッ。
白峰　この人数で乱交とは…ちょっとした「事件」だな。
一同　オースッ。
佐反町　よし。じゃーみんなで、カラオケ行くぞ。
一同　オースッ。
御器　待て。
　　…さっきからしゃべって無いやつが、気になるな。
比留　んー？
御器　比留。お前、イヤだろ。
比留　うん。やだやだよー。
佐反町　おい。
比留　やだやだ。
佐反町　じゃあ早く言えよ。蒲郡、脱いじゃっただろ（！）。
比留　いろいろ考えてたんだよ。
白峰　反対ならば、反対の理由を言いたまえ。
比留　反対とかじゃなくて、やだよ。触られたくないよ。こいつらに。
佐反町　…お前よぉ。んなこと言い出したら、いつまでもまとまんねーだろチームがよ。
比留　まとまんなくてもいいんじゃない？
佐反町　まとまらなきゃ試合出れねーだろ。
比留　んー。でもねぇ、触られなくないなー。本音だよ。
白峰　だからね比留くん。そういう個人的な感情を出すと、またややこしくなるだろ。去年はそれでギクシャクし、惨敗した。

比留　でもでも、自分の感情殺さなきゃいけないってのも、なんだそりゃ？じゃない？

白峰　なんだそりゃ、じゃないっ。チームメイトだ。仲間だ。無条件で愛し合うことこそ肝要。乱交イレブンっ、いや正しくは、乱交イレブンズなのだっ。

佐反町　部長。

御器　…乱交イレブンは…ナシだな。

蔵毛　え、ナシなの？

御器　ナシだよ。

蔵毛　イヤーッ（？）。

御器　比留、自分の意見をよく言ってくれた。

別にみんな違っていいんだよ。同じ色なんかに染まることはない。

みんな別々の考え方とか、持っていいんだよ。そのバラバラなメンバーがバラバラのまま、ひとつに結束することに意味がある。

蔵毛　すばらしいね。で？　で？　どうするんですか、部長殿。

御器　え？

蔵毛　どーやってひとつになるんですか？

御器　…このバラバラなメンバーがひとつになるには…もう小さなことからコツコツと、やるしかない。

佐反町　ん？

御器　（遠い目）人間関係の最小単位は…2人だ。チーム全体をどうするとかの前に、まずは2人。1対1の絆を絶対的に硬いものにしよう。うん、そうしよう。

白峰　御器君。ハナシが見ないのだが…。

御器　よしっ。今から、2人一組の「アベック」を作る。

佐反町　え？　アベック？

御器　アベックだ。今から、2人一組のアベックを作る。アベックを作ったら、そのアベックは、アベックとしてアベックの関係を強固な状態でキープする。絶対にアベックを解散してはいけない。

真今井　この時僕は、「アベック」っていう単語の響きが気になって、内容がちっとも入ってきませんでした。

御器　1対1のアベックがちゃんと築ければ、自然とチームとしてのまとまりもできる。俺はそう考えました。部長の御器です。
佐反町　はぁ…。
白峰　そのアベックというのは、どうやって作るのだね。
御器　それはまぁ、話し合いで決めていこう。
宇津保　待ってください、部長。部員は11名です。2人一組のアベックを作っていけば…1人あぶれる。あぶれた1人は、どうなるんですか？
御器　あっ…（今気付いた）
宇津保　まさか、試合に出れないとか？
御器　それは…えーっと…。
蔵毛　出れないでしょう。
佐反町　ええっ。
蔵毛　だって、そういうことでしょう？　誰ともアベックが作れないやつは、試合に出れないでしょう。
御器　まぁ、バラバラなチームでサッカーやるよりはマシだ。去年みたいな試合をやりたいのか？
佐反町　むちゃくちゃだろオイ…。
御器　むちゃむちゃですけど何か？
佐反町　開き直っちゃった…。
白峰　期限は？
御器　え？
白峰　いつまでに決めればいいのだね？
佐反町　おい。やんのかよ？
白峰　やるつもりですけど何か？
佐反町　問答無用かよ…。
白峰　いつまでに決めればいいのだね？
宇津保　10分。
御器　え？
宇津保　こういったことは直感勝負です。早い方がよろしいかと。10分で決めましょう。10分後に最終決定。
御器　よし。…1対1のアベックも作れないやつはチームにいらない。アベッ

ク作りを始めちゃおうー。
一同　はーい。
佐反町　とりあえず俺は、白峰と組む。
白峰　なにっ？
佐反町　だってお前、俺のこと好きだろ？
白峰　好きだ。好きだ好きだ。（直球）
佐反町　よし、アベック成立（佐反町と白峰がアベックになる）。
野宮　ちょ、ちょっとっ。もう始まってるんですか？
佐反町　始まってるだろーがバカか？白峰。俺とお前はアベックになる。
白峰　了解した。
野宮　えーっ。じゃ俺は氏川だ。氏川、組んでくれっ。
氏川　ええっ。
野宮　お前、俺のこと好きだろ？
氏川　犯したいっ。犯したいっ。
野宮　よし、アベック成立っ（野宮と氏川がアベックになる）。
葉枝　うおおおお？　じゃあ、蒲郡だ。お前、俺のこと好きだもんな？
蒲郡　左様でございます。
葉枝　アベック成立っ（葉枝と蒲郡がアベックに）。
香森　わーわー。く、九門っ。
九門　はーい（香森と九門がアベックに）。
御器　比留。
比留　はーい（御器と比留がアベックに）。

羽生　…あれ？

いきなり、羽生があぶれる。

宇津保　…余ったのは、羽生だけか。
羽生　ええええーっ。
白峰　こんなにすんなり決まるとはな。
野宮　いやー、よかったですねー。

羽生　え、あ、あの…。
佐反町　何か、最後に言い残すことはあるか？
羽生　短い間でしたが、どうもありがとうございました…。
一同　ありがとうございましたー。
羽生　…って、待て待てーっ。もうちょっと話し合いましょうよ。
野宮　話しあうって、何を話すんだよ？
羽生　そ、それは…。
一同　ありがとうございましたー。
羽生　ちょっとーっ。
宇津保　皆さん。お聞きください。また別の角度からの意見なんですが…。
佐反町　どうした、エリート。
宇津保　羽生の選手としての能力は、全体から見ても、トップクラスです。羽生がいないと、戦力は大幅にダウンです。
羽生　そ、そうだよっ。ナイスだ宇津保っ。へへっ。
氏川　能力とか、アベックには関係ないだろ。
宇津保　あるある。アベックを組んだメンバーと試合に出るんですから。
　その点も、よくお考えください。
白峰　なるほど…ということで、野宮君。
野宮　野宮です。
白峰　氏川くんと別れたまえ。
氏川　ええーっ。
白峰　そして、羽生くんと組むんだ。
氏川　白峰先輩。何言ってるんですかっ。
白峰　氏川君。どう考えても、この中じゃ、君が一番下手っぴだっ。
氏川　ギクッ。
白峰　そんなやつはチームに不要。野宮君、羽生君と組みたまえ。
野宮　憧れの白峰先輩のお言いつけなら…。
氏川　ちょ、ちょっと…野宮クン？
野宮　御意のままにっ（氏川から離れ、羽生のもとに）。
羽生　あざーすっ。
氏川　うわーっ。（あぶれた）

白峰　これにて一件落着っ。

葉枝　ちょっと待ったーっ。氏川…俺と組めっ。

氏川　葉枝クン。

葉枝　お前がいない部活なんて、考えられねぇよ。

氏川　いいの？　だって僕、葉枝クンのこと、セフレとか言って、あんなに傷つけて…。

葉枝　関係ねぇよ。アベック組もうぜ。愛し合おうぜ。試合に出ようぜ。

氏川　葉枝クンっ。

葉枝　氏川ぁっ。（抱き合う）

一同　（拍手。「おめでとう」「よかったよかった」等）

蒲郡　…あ、もしもーし。お取り込み中のとこ、すみませーん。

氏川　はい？

蒲郡　えー…そうなると、私は、いかがいたしましょうか？（あぶれてた）

葉枝・氏川　…さぁ？

蒲郡　こらこらこらーっ。葉枝っ。いいのかよっ。こいつはお前を傷つけたんだぜ。「セフレっしょ？」とか言ってたんだぜ。

葉枝　許すっ。大きな愛で、何もかも許すっ。

氏川　葉枝クンッ。

蒲郡　ぬわーっ。ヤダヤダヤダヤダ。ヘルプッ。誰かヘルプッ。

羽生　…やばい…やばい…。蒲郡先輩っ。

蒲郡　あ？

羽生　俺と組みませんか？

野宮　（羽生と組んでた）は？　は？　何言ってんの？

羽生　いや…ぶっちゃけ俺、蒲郡先輩の方が好きです。

野宮　ちょっと待てっ。お前、選べる立場じゃねーじゃんっ。ハブられてたじゃんっ。

羽生　さっきまではね。しかし、今は状況が違います。

野宮　どーゆーこと説明して？

羽生　蒲郡さんはフリー。そして、野宮さん。あなたは、ぶっちゃけ、白峰先

野宮　輩が好きだっ。
羽生　あー、そうなのですよー（本音）。
　　そんなやつとアベックが組めるかーっ…ということで、蒲郡先輩。よろしくお願いします。
蒲郡　丁重に、お断りしますぅー。
羽生　あれー？
蒲郡　やだよ。俺オメー嫌いだもん。リアルに嫌いだもん。
羽生　フラれたーっ。
野宮　（蒲郡）じゃ、じゃあ俺と付き合えよ蒲郡。
蒲郡　野宮…悪い。俺、おめーを愛せねぇ。
野宮　なんでっ。
蒲郡　お前にレイプされたトラウマ…克服できてねーんだよっ。
野宮　自らがまいた種で…畜生っ。
羽生　（野宮に）では、やはり俺と組みましょう。
野宮　触るなぁっ。

蒲郡と野宮と羽生があぶれている。

御器　待て待て待て。どっかは組めよ。なんとかしろ。
蒲郡　そう言われましても…。
白峰　特に、羽生君は優秀だ。
羽生　優秀です。へへっ。
白峰　是非とも試合に出したい。
羽生　試合に出たい。
佐反町　よーし。白峰っ。
白峰　うむっ。
佐反町　俺はお前と別れる。
白峰　おーっつ？
佐反町　そして羽生。お前は俺と組みやがれっ。
羽生　佐反町先輩っ。一生ついていきますっ（佐反町と羽生がアベックに）。
佐反町　これでいいだろーがっ。

白峰　ま、待ちたまえっ。どうしてそうなる？
君（佐反町）は私が、試合に出られなくてもいいのかっ…？
佐反町　バーカ。お前は、お前のことが好きな野宮と組めるだろーが。
白峰　なるほどたしかにその通り。野宮君、いらっしゃいっ。
野宮　棚からぼた餅、イェース（白峰と野宮がアベックに）
蒲郡　（あぶれてる）あのっ、先輩。佐反町先輩っ。
佐反町　ん？
蒲郡　俺は先輩の、中学時代からの後輩ですよっ。
佐反町　あ、そうだ。そういう設定、忘れてた（！）。
蒲郡　羽生なんかより、付き合い長いでしょっ。
見捨てないでくださいよー。
佐反町　そんなこと言われても、羽生はうめーからなー。
羽生　ヒッヒッヒ…（低級妖怪）。
蒲郡　俺だってうまいですよ。
佐反町　うーん。そうなんだよなぁ…。お前も、チームには欲しんだよなぁ。
…ってことで、葉枝。
葉枝　はい？
佐反町　お前、やっぱり氏川と別れろ。
氏川　ひっ。
佐反町　そんで蒲郡と付き合え。氏川は下手だし、蒲郡はお前のこと本気で愛してる。ユーたち付き合っちゃいなよ。
蒲郡　ひざまずいて、永久（とわ）の愛を誓おう。
葉枝　…すみません。先輩。俺、マジでこいつ（氏川）に惚れてるんで。
氏川　葉枝クン。
葉枝　その提案、飲めねっす。
佐反町　お前、先輩命令だぞっ。
蒲郡　だぞっ。
葉枝　すみません。飲めねっす。
佐反町　んだとコラーっ。
真今井　あ、あの、ちょっといいですか？
佐反町　なんだよ真今井っ。殺されてーのかコラーっ。

真今井　…人のアベックに口を挟むのっていいんですかね？
宇津保　よかろうもんっ。チーム全体のことを考える以上、自分のアベックのことばかりを気にしてはいられません。
真今井　そ、そうか。そうだよね…。
佐反町　おーい。誰か蒲郡どうにかしてくれよ。
蒲郡　拾ってくださーい。なんでもしまーす。
御器　お前が組んでやればいいだろ。
佐反町　そしたら羽生はどうなるんだよ。
御器　…よし。羽生は俺が組もう。
佐反町　マジかよ？
御器　羽生は明らかに戦力になる。これも、チームの為だ。
佐反町　さすが部長。じゃあ俺は蒲郡と組むぜ。
蒲郡　先輩っ。
御器　羽生。お前は俺と組め。
羽生　ふつつかものですが…どうぞよろしく。

蔵毛　…ちょっと待って。そうなると、比留が…。
御器　…あ。
比留　（あぶれた）あれー？　余ったぞー。
一同　…。
比留　誰か組んでよぉー。
佐反町　…まぁ、こういう空気にはなるよな。
比留　あれ？　誰もいないの？
御器　うーん…。
比留　御器。組んでよ。僕は、羽生より上手いよ。
御器　たしかに、比留と比べれば、羽生はそこまで上手くはない。
羽生　え。ちょっとーっ。
御器　ただ…羽生と俺なら…羽生の方がうまいな。

白峰　…御器君。何を言い出すのやら。
御器　比留。お前は、羽生と組め。俺が外れよう。

佐反町　おいおいおいっ。ふざけんなよ。
御器　チーム全体の戦力を考えたら、こうなるだろ。
佐反町　んなことねーだろ。バカか。
白峰　御器君。比留君と組み直したまえ。
部長がいないなんて、おかしいじゃないか。
御器　おかしくはない。チーム全体の戦力を考えたら…。
佐反町　俺たち3年は納得しねーぞ。ここまで一緒にやってきた仲間じゃねーか。御器、羽生を捨てろ。比留と組め。そんで、一緒に試合に出るぞ。
御器　…それは、ダメだ。
佐反町　あ？
御器　俺の望むのはチームの勝利だ。その為には、比留と羽生が組んだ方がいい。
白峰　チームの勝利を考えるならば、やはり一番下手っぴな氏川くんを切った方がいい。
御器　氏川と葉枝のいちゃいちゃを見ろ。あれを切れるか？
氏川　切れないっしょ？　切れないっしょ？
御器　俺の代りに、羽生を出して、このチームを勝たせてくれ。
それが俺の望みだ。わかるだろ。
佐反町　お前、本当にそれでいいのかよ。
御器　…あぁ。
佐反町　…よし。わかった。お前の犠牲、無駄にはしないぜ。
最強のチームになってみせる。
御器　これで結果がしょぼかったら、承知しないぜ。
白峰　…「全国優勝」。それくらいで、満足かな？
御器　あぁ。
比留　…ふざけんなよ。
御器　比留…。
比留　ちょっと待て。なんだよ、ソレ…。だめじゃん。この4人でサッカーできないなんて、わけわかんないじゃん。じゃあ僕たち、何のために一緒にいたの…。何のための、部活なの…。

香森　（いきなり）比留先輩。おロチャッーク。
がたがた言わねーでさ、チームの為に自らを犠牲にする部長の男気、汲み取ってあげましょーや。部長、まかせといてください。全国優勝、やっちゃいますよ。全国の首、とっっちゃいますよっ。な、大将（佐反町）。ホラ、大将からも、ガツンと言ってくれよ。

佐反町　…ってか、こいつ、いらなくね？
一同　いらない…いらない……。（ざわざわ）
香森　ん？　ん？
御器　本当だ…こいつ…あんまりいらないっ。九門、俺と組みなさい。
九門　よっしゃー（御器とアベックに）。
香森　え、えー？　ちょ、ちょっとーっ。部長、なんでそーなるんですか。
御器　俺は、九門の方が好きだ。
香森　九門、俺を裏切んのかっ。
九門　私のおふくろとセックスした恨み、一生忘れないっ。
香森　ワオ。自業自得。

真今井　はい。それじゃーお時間でーす。
香森　待ってっ。待ってっ。

蔵毛　こうして、5組のカップル、もといアベックが誕生した。
真今井　御器と九門。佐反町と蒲郡。白峰と野宮。比留と羽生。葉枝と氏川。
余ったのは…やはり香森。

御器　今後は、自分のアベックとの信頼関係を第一に考えるんだ。
わかったな？
一同　はーい。
香森　あ、あのー。余った俺は、どーしたらいいんでしょーか？
真今井　えっと…退部になるのかな？
宇津保　補欠です。もし、どこかのアベックの関係が壊れたら、入れるかもね。

香森　か、悲しいポジションだな…。
宇津保　アベックの皆さん。くれぐれも今の関係を崩さないでください。崩れたら、こいつ(香森)と付き合うハメになりますよ。
一同　はーい。
香森　…。

宇津保　2人で1組。5組10人体制が始まった。
蔵毛　この時代のことは後に「アベック乱立時代」と呼ばれる。
宇津保　誰が呼んでるんですか？
蔵毛　私だよ。

【25】

蒲郡　先輩、どこメシ行きます？
佐反町　サイゼ。
蒲郡　サイゼすか。じゃー自分、ドリアいただいちゃっていいですかー？
佐反町　ん？　誰だ、こんなとこにシャツおいてるやつ？
蒲郡　誰ですかね？
佐反町　…あ、コレ白峰だな。うわ。くせぇっ。
蒲郡　え？　マジすか？　…くっさっ。ハンパねぇ。
佐反町　くっさっ。
白峰　(登場)おいおい。人の下着を邪険に扱うな。
佐反町　だってくせえんだもんよー。
野宮　(乱入)やめてくださいっ。白峰先輩の臭いを嗅がないでください。
佐反町　…ああ。悪い。
野宮　(臭いをかぐ)あぁ…。
香森　…。
御器　(登場)おい。白峰ー。
野宮　なんでしょうか？
御器　…あ、いや、白峰に用事が…。

野宮　俺が聞きます。だって俺、白峰先輩の…デュフフ。
白峰先輩の、彼氏ですからっ。
佐反町　…いや、彼氏じゃねーだろ…。
野宮　彼氏ですからね。

氏川　野宮クン。ちょっと、おかしいよね。
葉枝　うれしいんだろ？　憧れの先輩なんだから。
氏川　にしても、やりすぎじゃない？
葉枝　いや、やりすぎなくらいがちょうどいいかもしれない。
氏川　え？
葉枝　油断してると…パートナーを奪われちまうからな。

香森　（登場）ひひひ…。…どうですかー氏川先輩ー？
今の相手に満足してますかー？
氏川　ま、満足してるよっ。
香森　そりゃなによりですねー。もし、今の相手に不満があったら、いつでも僕のとこに来てください。空いてますから。
氏川　あ、あっち行けっ。
香森　ひひひ…。
氏川　香森クン…キャラかわってる…。

香森　公式戦までまだ時間はある。結局のところ、それまでにパートナーをみつけりゃいいんだ。パートナーに不満や不信感のある人、どーこでーすかー？

真今井　香森のやつ、野放しにしてて平気ですかね？　あんなのがウロウロしてたら、今のアベックたちの関係を壊しちゃうんじゃ…。
蔵毛　しかし実際は、逆だった。
真今井　あら？
蔵毛　虎視眈々とパートナーを狙う香森の存在は、アベックの信頼関係を一層強くしていった。

真今井　はー。なるほど。
宇津保　…ように見えていたのは最初だけだった。
真今井　あら？
宇津保　所詮は打算で作られたアベック。いつか裏切られるのではないかという疑心暗鬼に陥り、おかしな行動が目立つようになってきた。カモンツ。

【26】

比留　僕はね、キミのこと全然好きじゃないの。
羽生　はい。
比留　でも、君とは付き合っていないと、試合に出れないの。
羽生　それはいやなの。
比留　俺もいやです。
羽生　絶対に裏切らないでね。
比留　裏切ったら、この写真、学校中にバラまくからね。
羽生　え、写真？
比留　この間、キミが寝てるときに、撮ったんだよね(見せる)。
羽生　(見る)うわーっ。なんすかコレーっ。
比留　裏切ったらバラまくからね。へんな気おこさないでね。
羽生　シャレんなってねーからマジでっ。
九門　どんな写真なのソレ。
羽生　見えてる。何もかもが、だいたい見えてしまっている。
九門　マジかよっ。
羽生　あれバラまかれたら、無理だ。死のう。
九門　でも、いいじゃん。そこまでやるってことは、比留先輩、お前を裏切らないんじゃねーの？
羽生　そうかもしんないけど。

九門　なんてことがあったらしいんですよね。
御器　なるほどな。
九門　ってことで、俺も部長のとある写真を確保しました。
御器　な、何やってんだーっ。
九門　こちらになりまーす。（進呈）
御器　うわー。自分自身で見ることのできない部分が見えている…。
九門　仕方ないでしょ。
御器　だって御器さん、明らかに俺のこと、好きじゃないでしょ？
九門　いや、好きだよ。好きだよ。ほら（抱きしめる）。
御器　伝わらないなー。御器さんの愛、伝わらないなー。
九門　伝わって。受信して。
御器　不安なんですよ。不安だったんですよ。しかし、ご安心ください。
九門　先輩の分の写真も用意しましたから。
御器　なんだこの写真…？
九門　俺のアレです（進呈）。
御器　まぁーっ。
九門　こちらを先輩に差し上げます。これで条件は同じです。
御器　これ、自分で撮ったの？
九門　はい、なんかこうやって（再現）。
御器　弱みを交換しあう二人。これでお互い、安心ですねっ。
　　…。
蒲郡　脅迫と脅迫でつながる対等な緊張関係、いいと思いますよ。
御器　そうかー？
蒲郡　だって、佐反町先輩なんて…佐反町先輩なんて…うぅ。
御器　ど、どうした蒲郡。
蒲郡　殴るんですよっ。俺のこと殴ったり怒鳴ったりするんですよ。
御器　暴力？　暴力が存在してるの？
佐反町　おい。蒲郡っ。
蒲郡　ひぃっ。

佐反町　お前、俺の許可なく、どっかいくなよ。殴るぞ。
蒲郡　な、殴らないでください。
佐反町　あ？　あ？　あ？
蒲郡　い、痛いんですよ。
佐反町　そりゃ痛いだろ。痛いように殴ってるんだもん。
蒲郡　なぜでしょう？
佐反町　だって、お前、俺を裏切るかもかしれねーじゃん。
痛みと恐怖で、精神的に支配しておかねーとな。
蒲郡　なんでそーなるんですか？
佐反町　うららうらうら（パンチ）。
蒲郡　痛いーっ。

白峰　こらこら。パンチはやめないか。
蒲郡くんだってアスリート。ボディは大切だ。
佐反町　やべ。そういう設定、忘れてた。
蒲郡　ひいいいいっ。（逃げる）
佐反町　あ、蒲郡のやつ…逃げやがったなっ。待てーっ（追う）。

白峰　やれやれ。
野宮　（登場）白峰先輩っ。なんで俺以外の部員と会話してるんですかっ。
白峰　いや、会話くらいするだろう。
野宮　死にます。俺、死にますっ。
白峰　ちょ、こらこらこらーっ。
野宮　先輩。約束してください。もう俺以外の人間と会話をしない、とね。
白峰　野宮君、そんな約束はできないよ。
野宮　どうしてですか？
世界にはもう、俺と先輩の二人しかいないんですよ…デュフフ…。
白峰　さて。帰るとしよう。
野宮　せ、先輩っ。どうしてわかってくれないんですか…。

氏川　（物陰から）野宮クン。あんなわからずやの先輩に弄ばれて…かわい

そうに…。

野宮　でも、俺はめげないっ。がんばるっ。しゃらーっ（？）

氏川　野宮クンっ。…チッ。もう少しだったのに…。

葉枝　…おい。

氏川　は、葉枝クン。

葉枝　氏川…まさか、まだ野宮のこと。

氏川　な、何バカなこと言ってんだよ。

葉枝　そうだよな。俺たちは大丈夫だよな。

氏川　……うん。

葉枝　え？　ナニ？　今の間？

氏川　何でもないよ。

葉枝　いやいや、明らかにヘンな間あったでしょ今。

氏川　もーやだー。どうせお前は俺のこと、セフレとか思ってんだよーっ。

葉枝　何ってんだよ。昔は昔。今は今だよ。

氏川　そうだよな。今の俺たちは、相思相愛だよな。

葉枝　……うん。

蒲郡　だから、ナニその間ーっ。

佐反町　（物陰から）葉枝…。くそ…俺が抱きしめてやりてぇー。

蒲郡　おいコラ。何、葉枝見てんだよコノヤローっ。（殴る）

真今井　ごめんなさーい。

香森　うわー…。なんか、みんな、大変だなぁ。

蔵毛　どっか別れそーなとこはないんですかー？

真今井　アベックという1対1の濃密な関係。

宇津保　束縛し合うウザーい関係。しかし、

　　アベックを解散し、孤立すれば試合に出られない。

　　解散できるわけがない。

　　こうして「強制的に」がっちり結束させられたチームで、公式戦に出場。

御器　よーし、チームワークはバッチグーだっ。
佐反町　いくぞー。
宇津保　その結果は？

真今井　地区大会、突破。
一同　おおっ。
真今井　県大会、突破。
一同　おおっ。
真今井　そして、ブロック大会…
蔵毛・真今井・宇津保　ベスト4。

佐反町　やったー。
蔵毛　忘れないでね。うちら10人しかいないからね。
真今井　この成績は、高天原高校サッカー部、創立以来、最高の成績だったそうです。快挙ってやつだね。
宇津保　「アベック」のルールは、成功だったといっていいでしょう。

御器　たった4人でスタートした、俺達四天王の部活。ついには、ブロックベスト4という輝かしい成績を収めた。こんな感じで、僕たち
真今井　私たちは
佐反町　高天原高校を…卒業します。
一同　卒業します。

宇津保　ありがとう。四天王。
あなた方に負けないよう、私たちも頑張ります。

御器　『露出狂』。こんな感じで（雑）、
本日はどうも、ありがとうございました。

一同、退場しかける。

真今井　いやいやいや、終わらないっすよ。
あなた方はここで卒業ですけどね、僕たちの高校生活はまだまだ続くんです。
御器　…ごめん。
真今井　強制的に2人一組のアベックを作る。この狂ったルールで、なまじ良い成績を収めてしまったことは…やがて、僕たちを苦しめることになる。

【27】

宇津保　年が開けての新年度。今年も優秀な人材が数多く入ってきました。個人の競技力、は四天王には及びませんが、選手の層は厚くなり、チームの戦力は飛躍的にアップ。今年こそ目指せ県大会、ブロック大会、全国大会、優勝っ。

真今井　部員が急激に増えて、宇津保は嬉しそうだったが、2・3年はどんよーりしていた。新入部員、新しいチーム編成…つまり再び、「アベック」を組み直さなければならない…。

羽生　真今井さん。真今井さん。
真今井　なんだよ…。
羽生　今年もやるんですか？　アベック？
真今井　わかんねぇーよ…。
九門　やるんじゃねぇの？　だってそれで去年はいい成績おさめたじゃん。今年もアベックだろ。
羽生　ええっ。やんのかよっ。
九門　また、盗撮しないとなっ。
羽生　ひぃいっ。写真こわい。写真こわい。
香森　くそっ…今年こそ誰かと組まねぇと…何のために部活にいるのかわからねぇ…こうなったら力づくで…ブツブツ…ブツブツ…。

真今井　新2年生はアベックのルールにビビりまくっていたし、新3年生は…もうボロボロだった。

真今井　蒲郡は、佐反町先輩に殴られまくったせいでノイローゼに。

蒲郡　うううー…。

真今井　野宮は、白峰先輩が卒業し、ヌケガラ状態。

野宮　白峰先輩…。

真今井　からの、さみしさを紛らわすために、再び蒲郡をレイプ。

野宮　さみしさを紛らわす為に、レイプします。

蒲郡　あー、なすがままー。（やられる）

真今井　葉枝は、氏川に嫉妬し過ぎて胃潰瘍に。

葉枝　氏川…やっぱりまだ野宮のことを…。

真今井　氏川は…。

氏川　…。

真今井　あ…こいつは普通だ。

氏川　僕は普通です。

宇津保　共通して言えること。それは…「人間関係」というものに、完全に疲れてしまっていたのだ。

真今井　めんどくせぇ…。ガチめんどくせぇ…。

真今井　1年2年とやってきたけど、チームワークだの人間関係だの、誰が好きとか嫌いとか、乱交とかセックスとかレイプとか、もう面倒くせーんだよっ。

宇津保　真今井さんが、完全にキレてしまった。

真今井　もうアベックとかやめようぜ。サッカー以外のことにアタマ使うのなんて、やめちまおう。サッカーだけ、サッカーにだけに体力を使おうぜ。

野宮　賛成…。

蒲郡　そうしようそうしよう。

葉枝　サッカー中心で考えよう。
氏川　サッカー部だもんね。サッカー部だもんね。
宇津保　では、今年は「強制アベック」はなしで、よろしいですね？
一同　はーい。

真今井　いやいやいや、そうじゃねーだろ、エリート。
宇津保　はい？
真今井　強制アベックの廃止…。だめだよ。そんなもんじゃ。もっともっともっともーっと、サッカー中心で考えていかないと。
宇津保　はい？
真今井　…今後、サッカー部員同士でのプライベートな付き合いは、一切禁止します。
氏川　えっ。
葉枝　一切っ？
真今井　一切禁止。肉体関係はおろか、友達付き合いもダメ。部員同士はサッカーをやるだけの関係。それ以上もそれ以下も無い。そーゆーシンプルな関係で、いいじゃないっ。
氏川　いやいや、よくないよ。よくないよ。
葉枝　そもそも、俺たち（氏川）は付き合ってる。一切禁止ってのは、どんなもんでしょうかね？
宇津保　いや、大いに賛成ですね。
４人　宇津保…。
宇津保　強くなるためのより有効なシステムがあるならば、採用するのは当然。
蒲郡　それが…
宇津保　よかろうもん。プライベートの付き合い禁止。感情的なトラブルに振り回されるよりかはマシでしょう。何か問題でも？
野宮　蒲郡をレイプできないなんて…白峰先輩がいないさみしさ、どうやって紛らわせればいいのよっ。
宇津保　部員じゃない人をレイプしてください（大問題）。
野宮　なるほどっ（納得）。

宇津保　一年はどうだ。「プライベートの付き合い禁止」、どやさ？
羽生　まぁ、もともとそんな付き合いなかったから…。
九門　アリっちゃアリだな。
香森　試合に出れるんなら、なんでもいいでーす。
葉枝　いやいや、俺たちは反対だぜ。
氏川　そうだよ。愛し合ってるんだよっ。
真今井　あのなぁ…。
葉枝　ん？
真今井　そこは、もう別れろよ。ウゼーんだよっ。
葉枝　う、うざい…？
真今井　そういうベタベタした関係が、この部を悪くしてきたんだよ。四天王の時代から始まった、ホモっぽい感じ？　エロゲーみたいな同人誌みたいな雰囲気？　そんなのは俺の代でお終いだっ。サッカーを真面目にやりましょうっ。キャプテン翼みたいな演劇にしようっ（！）。
宇津保　どうやら真今井先輩は、この部のノリが本当にお嫌いだったらしい。
真今井　もし別れないんだったら、辞めてもらうからなっ。
葉枝　そこまで言うかっ。
真今井　そこまで言うよっ。
葉枝　真今井。最高学年になったせいか、いやに強気じゃねーか。
真今井　うるせえっ。
葉枝　…。
真今井　どーすんだよ。別れんのか？　それとも、辞めんのか？
葉枝　そんなの、決まってんだろ。
氏川　うん。決まってるよっ。せーのっ。
葉枝　退部するっ。
氏川　（同時に）別れます。
葉枝　愛する人も愛せない部活なんざ、こっちから願い下げだ…って、あれれ？　氏川さんっ？。
氏川　ごめん…。僕、サッカー好きだし…。
葉枝　いやいやいや、だってお前っ。元々、俺がいるからサッカー部入ったんだろっ。俺目当てで入部したんだろ。

氏川　葉枝クン…それ、いつの話？
葉枝　え？
氏川　入部したのなんて、2年前だよ。人は変わるんだよ。
葉枝　ええーっ。なんだよソレーっ。
氏川　でも大丈夫。僕らは別れる必要はないんだよ。
葉枝　どゆこと？
氏川　「部員同士で」プライベートな付き合いをしちゃいけないんだから…
僕たちのうち、どちらか一人が退部すれば、付き合っていられるんだよ。
葉枝　そうかっ。そういうことかっ。
氏川　ね？
葉枝　じゃあ、お前が退部しろっ。
氏川　な、なんでーっ。
葉枝　お前は下手っぴだろっ。俺の方が絶対的に上手いっ。
なぁ、そうだろ？
真今井　…単純に、選手の力だけを見れば、葉枝を選んだだろう。
葉枝　…え？
真今井　しかし僕たちは、「せーの」で、サッカーよりも氏川を選んだ葉枝を
全く信用できなかったし、
蒲郡　葉枝の前でサッカーをとった氏川に「おおっ」っと思ってしまったし、
野宮　葉枝の方が氏川好きなんだろ？　葉枝がやめちゃえば？
葉枝　ちょ、ちょっと…。
宇津保　能力主義ならぬ、覚悟主義と言いますか…本気の人だけ、サッカー
中心で考えられる人だけでやりたいものですね。
葉枝　「ちょ、ちょっと待てよ…わかったよ。氏川とは別れるよ。サッカーや
らせてくれよ」。
真今井　…残念ながら葉枝は、そう言えなかった。
葉枝　いつからだコレ…。俺…サッカーよりも、氏川のことが好きになってた
んだな…。
真今井　葉枝。辞めろ。
葉枝　ありがとうございました…。

宇津保　これ以降、私たちは、お互いのプライベートに一切干渉しなくなる。
蒲郡　口もきかない。仲良くもしない。
氏川　そのかわり、ケンカもしない。
九門　ドライな関係。クールな関係。
野宮　さみしくなったら、誰かをレイプ（最低）。
真今井　仕事のようにロボットのように、もくもくとサッカーをやるだけになる。この時代のことは、後に「超ビジネスライク時代」と呼ばれる。
宇津保　誰が呼んでるんですか？
真今井　俺だよ。

宇津保　ひたすらに、サッカーをやるだけ。
真今井　特に面白い事件も起こらない。なにかあった？
宇津保　部活とは関係ないのですが、
羽生　うちの姉ちゃんが離婚しました。原因はこいつ（香森）です。
香森　俺でーす。
九門　うちのかーちゃんは親父と離婚調停中です。原因はこいつ（香森）です。
香森　俺でーす。
真今井　ふーん。全然知らなかった。そういう話も、しなくなっちゃったからね。…みんな怖くなったんだよね。人と関わるのが。

宇津保　では皆さん。用意はいいですか。
真今井　そして迎えた公式戦。宇津保の戦略に忠実に従い、戦った俺たち。
宇津保　その結果は…
真今井　地区大会、突破。
一同　…。
真今井　県大会、突破。
一同　…。
真今井　ブロック大会、突破。
一同　…。
真今井　そして、全国大会…。

宇津保　優勝っ。

真今井　…なんだよ。最初からこうすりゃよかったんじゃねーかよ。「仲良くしようよーみんなー」とか言ってた自分が、バカみてーだよ。おめでとうみんな。全国優勝できて、よかったね。わけわかんねーくだらねー3年間をどーもありがとうございました。俺もう二度とサッカーやりません。見ません。関わりません。じゃ、卒業すっからな俺。お前らよりもいい大学行って、大金持ちになるからな。じゃーな、一生さよならー。

野宮　おつかれー…。

羽生　お疲れさまでしたっ。いやー、優勝できてよかったですねー。

蒲郡　おつかれー…。

羽生　あ、あの先輩。打ち上げとか行かないんすか…あれ…？

氏川　おつかれー…。

羽生　あ、先輩。みんなで記念撮影とか…。

氏川　…。

【28】

羽生　さみしい…。こんなの、さみしい。…。たしかに俺たちは、全国大会優勝という快挙を成し遂げた。でもこんなの、高校サッカーじゃねぇ。さみしいよ。プライベートな付き合いがないなんて、さみしいよ。俺たちが望むのは勝利だが、問題なのは、その勝利の瞬間を、「誰と一緒に」味わうかだ。先輩たちみたいなビジネスライクな関係は、イヤだ。よし、俺たちが3年になったら、普通の部活に戻ろう。喜び分かち合ったり、苦しみ分かち合ったり、そういう普通の部活にしよう。どうだろう、宇津保？

宇津保　羽生。お前の好きにしたらいい。

羽生　え？　なにそれ？
宇津保　私は、このタイミングで、この部からいなくなるからな。
羽生　えーっ。
宇津保　言っただろ。私の目標はサッカー監督のプロライセンス取得。全国優勝したこの部にもはや用はない。この経験と実績を手に、サッカーの本場、イタリアに飛びまーす（消える）。
羽生　九門、宇津保がいなくなっちまったっ。どうするよ？
九門　俺にはかかわりのないことだ。俺も転校するからね。
羽生　ん？
九門　両親の離婚が成立したからな。俺はかーちゃんの実家のある〇〇に行くよ。
羽生　え？　え？
九門　達者でな。バイバーイ（消える）。
羽生　おいおい。香森っ。お前のせいで、九門が転校しちまったじゃねーかっ。どーしてくれんだよっ。
香森　羽生…ごめんな。
羽生　ん？
香森　実は俺も、高校辞めるんだ。
羽生　えー？　なんでなんでなんでっ。
香森　ほら。俺のせいで、お前のねーちゃん、離婚しただろ？
羽生　え？　それで？
香森　実は、あのあとも、俺とお前のねーちゃんとずっと付き合ってたんだ。
羽生　は？
香森　で、この前、やっとプロポーズしたんだ。
羽生　は？
香森　結果は…（ガッツポーズ）。
羽生　…は？
香森　式は今年の秋。大安吉日を選んで、式場もおさえた。
羽生　マジでっ。
香森　これからは、気兼ねなく「兄貴」と呼んでくれ。

羽生　マジかーっ。
香森　だからまぁ、今から働かなきゃいけねーんだ。
　　ってことで、高校辞めまーす（消える）。
羽生　えー…。
羽生　…同期が誰一人いなくなり、3年生は俺ひとり。この時期のことは後に「羽生ひとりぼっち時代」と呼ばれる。
御器　誰が呼んでるんだ？
羽生　あ、自分っす…。
御器　羽生はひとりぼっちだったが、しかし、羽生の望み通り、これ以降、高天原高校サッカー部体制はゆるやかーに「一般的な部活動」に変化していく。それにともない、大会の成績も、ゆるかやーに、平凡なものになっていく。高天原高校サッカー部は、俺達四天王が入ってくる前の状態に戻る。
　　今は…俺たちのことを知ってるやつなんで誰もいない。
蔵毛　ここで、小気味よいテンポに流され飛ばされしてしまった、ウチの学年の卒業シーンをお見せしておこうかね。

【29】

野宮　白峰先輩っ…。
白峰　おお。野宮くん。
野宮　本当に、卒業しちゃうんですか？
白峰　するよ。確実にするよ。
野宮　…先輩の第二ボタン、俺にくださいっ。
白峰　ボタン？
野宮　高校生活の思い出に、先輩の第二ボタンが欲しいんですっ。
白峰　思い出か…。すまないな野宮くん。これはあげられないんだ。

野宮　え…？
白峰　私の高校生活の思い出は、誰にもあげられない。
野宮　…先輩の行く大学っ。俺も行きますっ。
白峰　無理だ。君の偏差値では無理だ。
野宮　いや、絶対に行きます。
白峰　…ならば、がんばりたまえ。
野宮　はいっ。

佐反町　ってかお前、いつ受験勉強なんかやってたんだよ。
白峰　部活を引退してからだよ。
佐反町　それでよく受かったな。
白峰　私は、頭がいいからな。
佐反町　あれ？　御器は、どーすんだ？
御器　俺は専門だ。
佐反町　ふーん。…おい、野宮。
野宮　はいっ（まだいた）。
佐反町　あっち行ってろ。
野宮　ふへーっ（消える）。
白峰　しかし、君も大変だな。
佐反町　あ？
白峰　このご時世に、高卒でフリーターとはな…。
佐反町　バカバカ。フリーターじぇねぇよ。正社員で就職だよ。
白峰　しゅ、就職っ？　君のような人間を雇うような企業が存在するのかね？
佐反町　あるよ。引く手あまただよ。
白峰　引く手あまた？　君がそんな難しい言葉を使うとは…「男子三日会わざれば刮目して見よ」とは言ったものだが、私は君のことをもっと注意深く観察してみる必要があったようだ…（ブツブツ）。
蔵毛　ちょっと、私は？
佐反町　あ？
蔵毛　進路、進路。私は、どうするか、聞かないの。

佐反町　興味ねーよ。
蔵毛　私はね、家業のパン屋さんを継ぐんだよ。
佐反町　知らねぇよ。
蔵毛　あの、駅前の、クロワッサンの、すごい行列ができてる…。
御器　え。あ、知ってるっ。あそこ？
蔵毛　あれね、ウチ。
佐反町　マジか。全然知らなかったー（などと盛り上がる）。

そこへやってくる、比留。

比留　…みんな、バラバラになるのですね。
佐反町　まぁな…。
比留　僕は、信じられませんよ。これは、本当ですか？
佐反町　マジだよ。みんな卒業するし、こいつ（蔵毛）はパン屋さんだ。
比留　…みんな、バラバラになるのですね。
白峰　…いつかこうなるサダメだと、わかっていたことじゃないか。
比留　では、なんなのでしょうか？
白峰　…。
比留　僕たちの出会いとは、なんなのでしょうか？
バラバラになるのがサダメであるならば、僕たちは、
何のために出会ったのでしょうか？
いつかバラバラになるならば、あの日、あの場所で、
僕たちは、何のために、ひとつになったのでしょうか？
御器　…。
比留　僕たちは、何のために、ひとつになったの？
白峰　いつかバラバラになるために…私たちは、ひとつになったんだよ。
比留　…。
佐反町　この後、比留はものすごい勢いで泣きだしたから、
メンドくせーから…
御器　…放置して帰った。

【30】

一人、立ち尽くす比留。
そこへやってくる御器。声をかける。

御器　おい…。
比留　（振り向く）
御器　そこ、サッカー部の部室なんだけど…入部希望者？
比留　（うなずく）
御器　あ、本当に。一年生？
比留　（うなずく）
御器　俺も、一年生。B組の御器です。
比留　（頭を下げる）
御器　えっと…入部するの？
比留　（うなずく）
御器　あ、よろしく。
比留　…よろしくお願いします。

了

※ 上演を希望する際は、有料・無料に関わらず、
必ず劇団までご連絡いただき、戯曲使用の許諾をお受けください。